

狩野川水系河川整備基本方針

狩野川水系の流域及び河川の概要（案）

令和 年 月

国土交通省 水管理・国土保全局

目 次

1. 流域の自然状況	1
1-1 河川・流域の概要	1
1-2 地形	2
1-3 地質	4
1-4 気候・気象	5
2. 流域及び河川の自然環境	7
2-1 流域の自然環境	7
2-2 河川及びその周辺の自然環境	15
2-3 特徴的な河川景観や文化財等	20
2-4 自然公園等の指定状況	26
3. 流域の社会状況	29
3-1 土地利用	29
3-2 人口	30
3-3 産業と経済	31
3-4 交通	32
4. 水害と治水事業の沿革	34
4-1 既往洪水の概要	34
4-2 治水事業の沿革	41
5. 水利用の現状	45
5-1 水利用の実態	45
5-2 渇水被害と渇水調整などの現状	47
6. 河川流況と水質	48
6-1 河川流況	48
6-2 河川水質	50

7. 河川空間の利用状況	55
7-1 河川の利用状況	55
7-2 高水敷の利用状況	57
8. 河道特性	61
8-1 河道の特性	61
8-2 土砂・河床変動の状況	62
9. 河川管理	65
9-1 河川管理区間	65
9-2 河川管理施設	66
9-3 河川情報管理状況	67
9-4 水防体制	68
9-5 危機管理への取組	70
10. 地域との連携	71

1. 流域の自然状況

1-1 河川・流域の概要

狩野川は、その源を静岡県伊豆市の天城山系に発し、伊豆半島中央部の大見川等の支川を合わせながら北流し、田方平野に出て、伊豆の国市古奈で狩野川放水路を分派し、さらに、箱根山や富士山等を源とする来光川、大場川、柿田川、黄瀬川等を合わせ沼津市において駿河湾に注ぐ、幹川流路延長 46km、流域面積 852 km² の一級河川である。

その流域は、静岡県東部に位置し、駿豆地区の中核都市である沼津市をはじめとする 6 市 3 町からなり、流域の関係市町の令和 2 年（2020 年）の人口は、約 65 万人で、過去 30 年の人口推移は概ね横ばいで推移しているが、高齢化率は約 10.8% から約 30.1% と大きく変化している。流域の土地利用は、山地等が約 75%、水田や畑地等の農地が約 12%、宅地等の市街地が約 13% となっている。

下流の氾濫域に位置する沼津市や三島市は、東海道新幹線や東名高速道路が東西に通過する交通の要衝になっており、この地域における社会・経済・文化の基盤をなしている。

さらに、富士箱根伊豆国立公園に囲まれ、豊かな自然環境を有する我が国有数の観光地を擁し、また、地域の生活を支え文化を育む「ふるさとの川」として親しまれており、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きい。

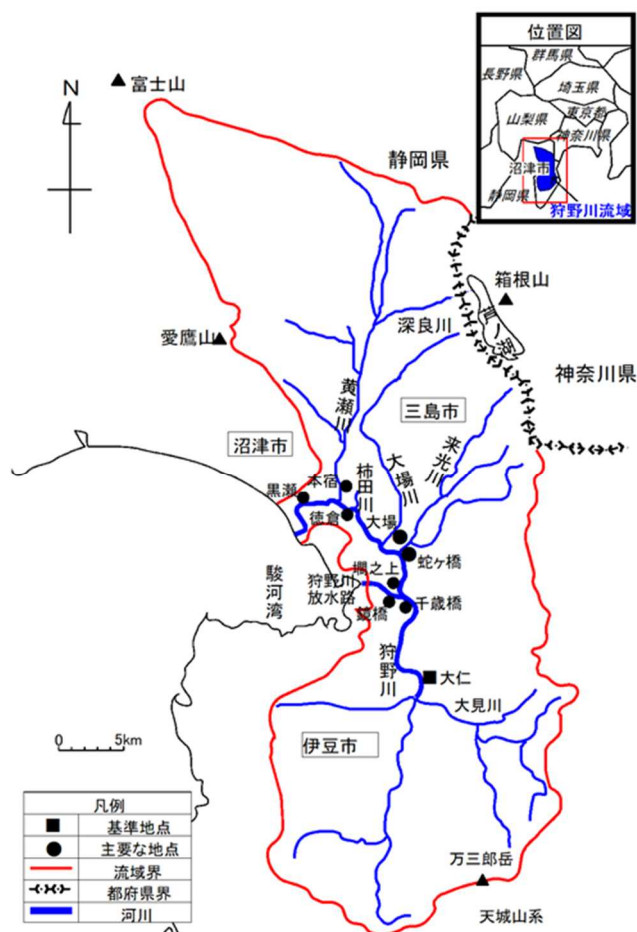


図 1-1-1 狩野川流域図

1-2 地形

狩野川流域は、富士山、箱根山、愛鷹山^{あしたかやま}、天城山等の火山からなる山地がおよそ75%を占めており、旧修善寺町^{しゅぜんじ}（現伊豆市）付近から河谷が開け、中流部には田方平野が広がっている。

田方平野は、標高が10m前後の盆地状の低地であるとともに、末端には黄瀬川からの三島扇状地が押し迫り、狩野川の流路が狭いため、洪水被害を受けやすい地形となっている。

下流部は三島扇状地の先端を縫うように流れ、扇状地の先端部が三島溶岩流の先端部にも当たることから湧水に恵まれており、東洋一といわれる柿田川湧水等の湧水群が点在しているほか、河口付近には狭い三角州が見られる。

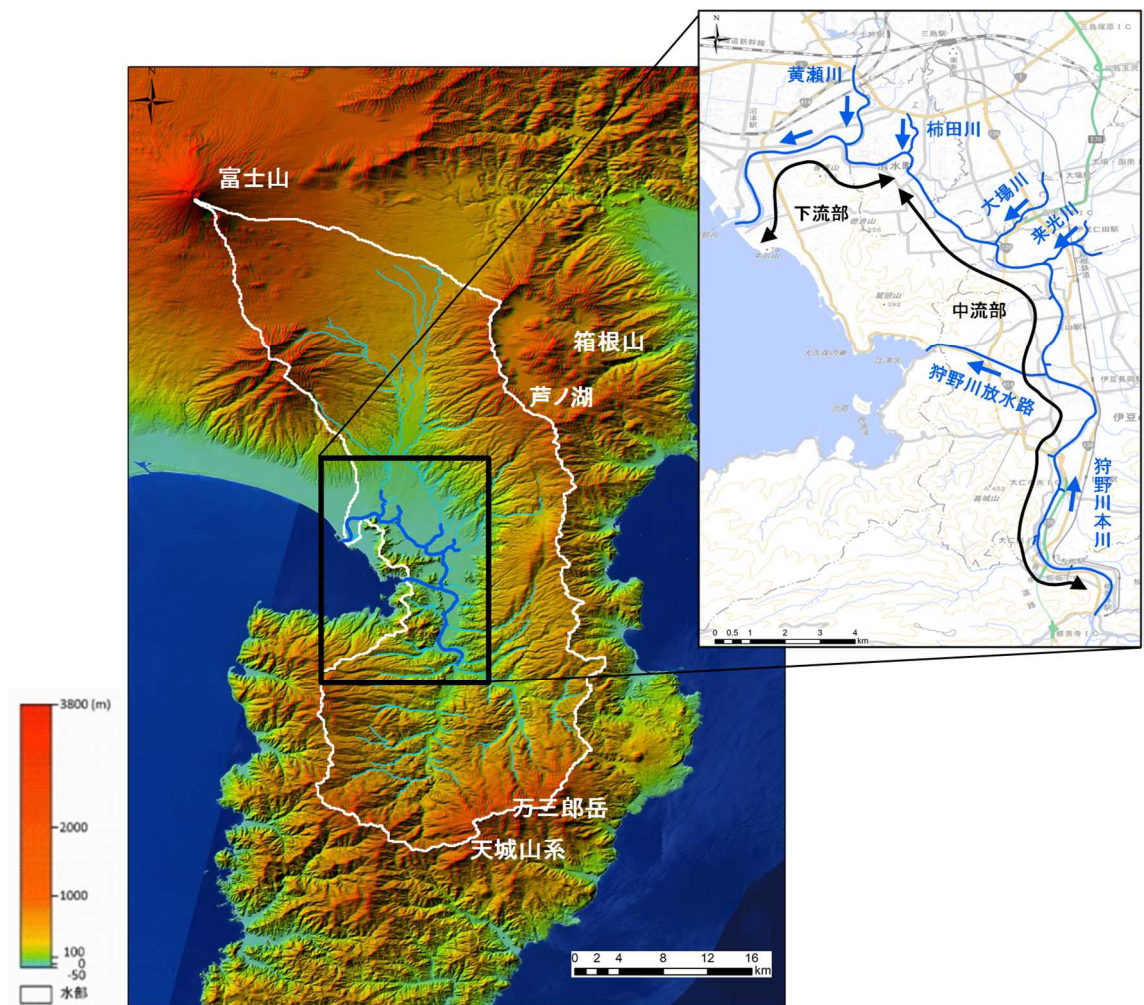


図 1-2-1 狩野川流域 地形状況

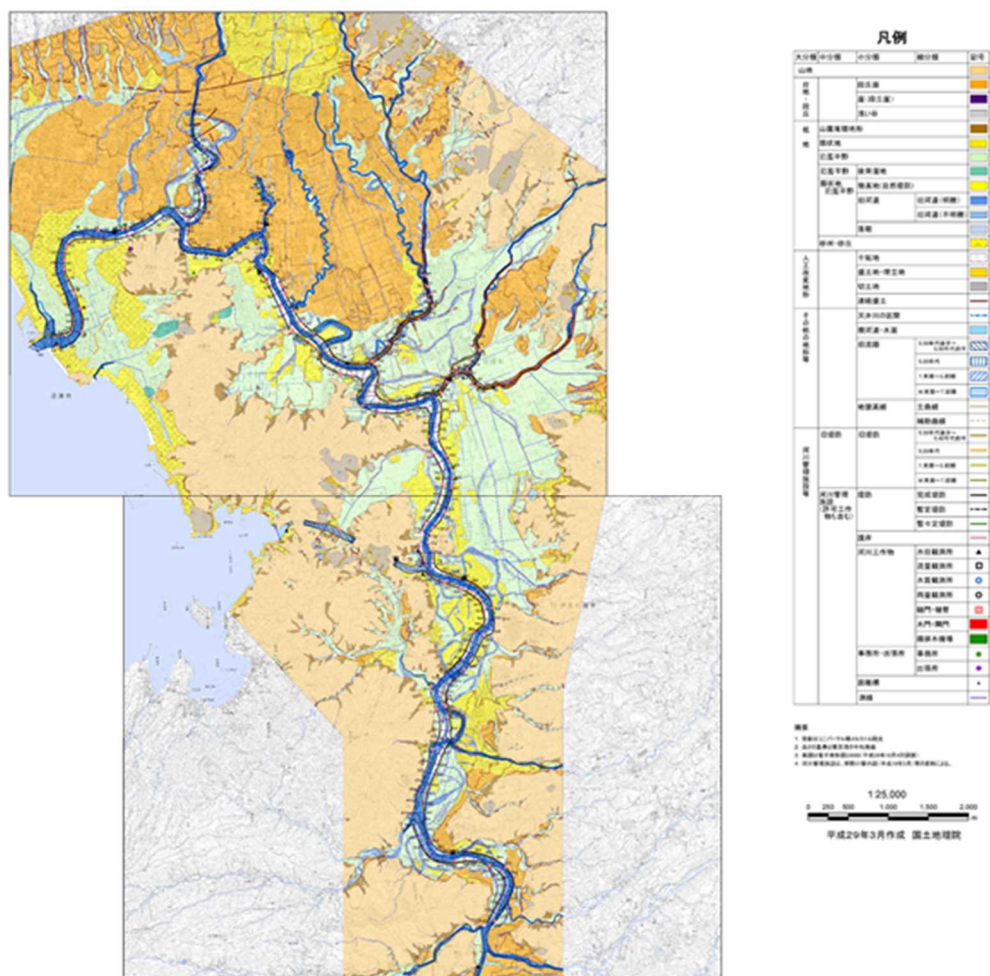


図 1-2-2 狩野川流域 地形分類

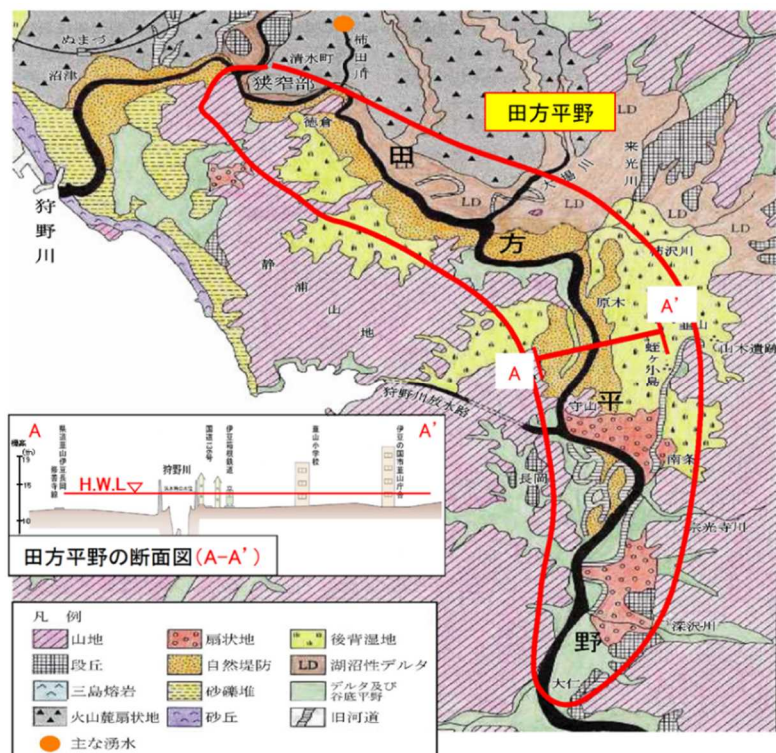


図 1-2-3 狩野川流域 田方平野

1-3 地質

狩野川流域は火山地帯であり、第四紀に噴出した箱根山・愛鷹山・富士山・天城山・達磨山、それに新第三紀に形成された火山性地層からなる静浦山地などに囲まれ、その地質はほとんどが火山岩及び火山噴出物からなる。基底をなしているのは新第三紀に海底火山として噴出した安山岩、流紋岩及びこれらの集塊岩、凝灰岩である。

このように流域の大半が脆弱な火山噴出物で形成されているため、大雨などで崩壊しやすい地質構造となっており、昭和 33 年（1958 年）9 月の狩野川台風時には上流の天城地方を中心に約 1,200 箇所もの斜面崩壊が生じている。

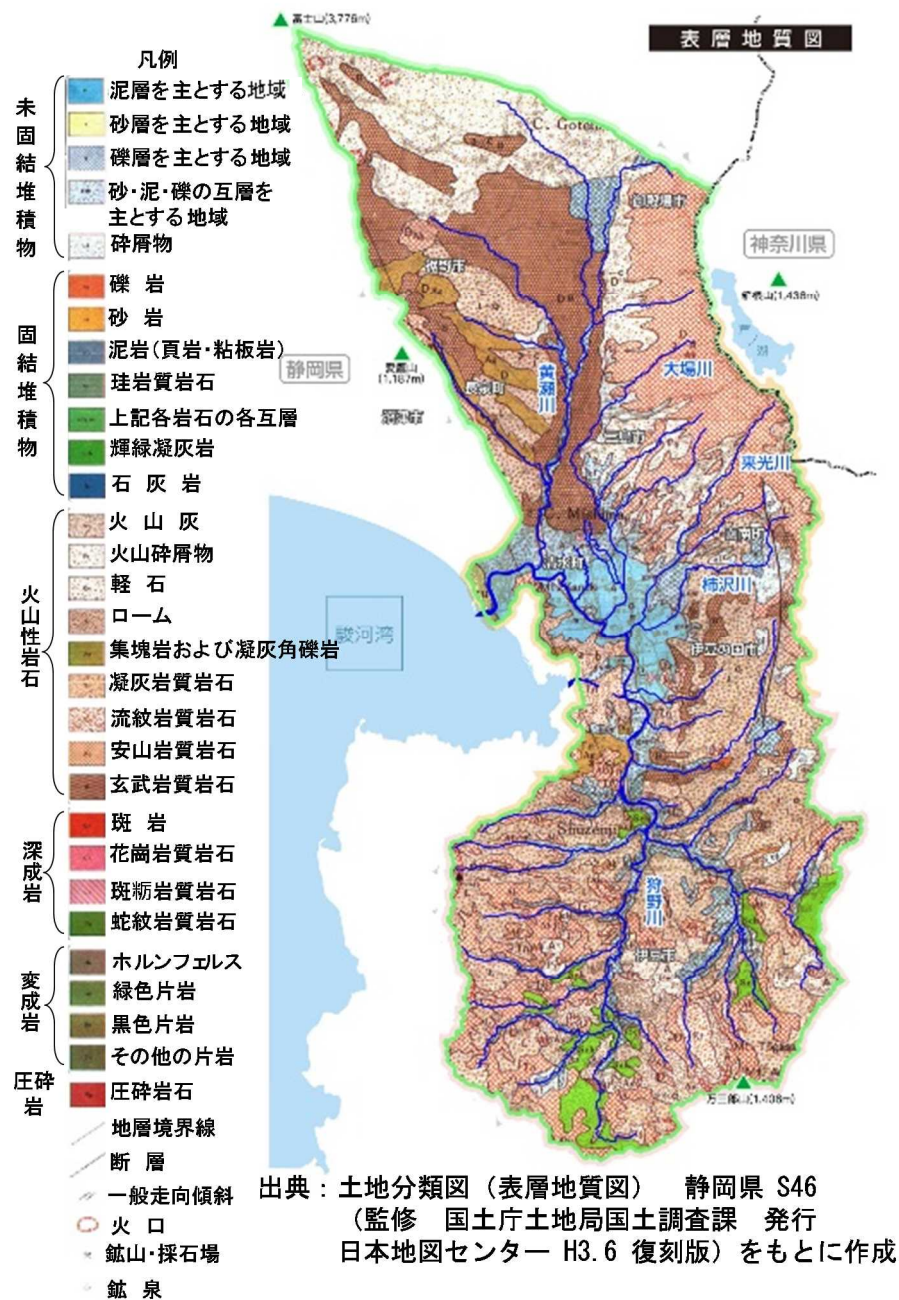
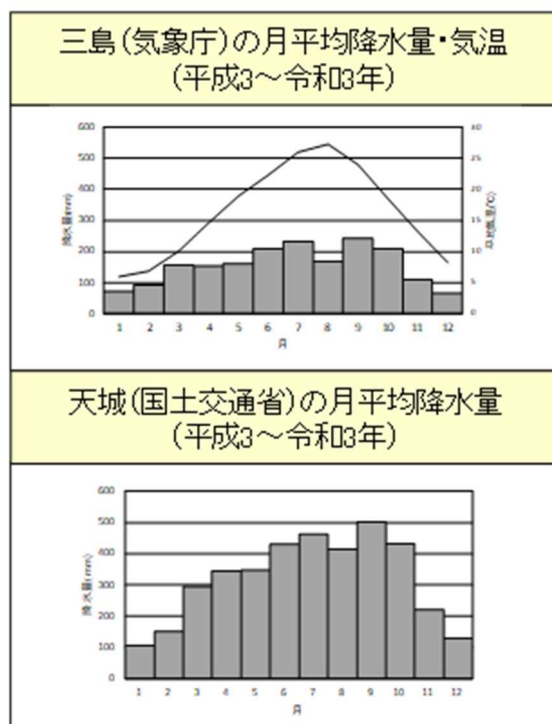


図 1-3-1 狩野川流域 地質図

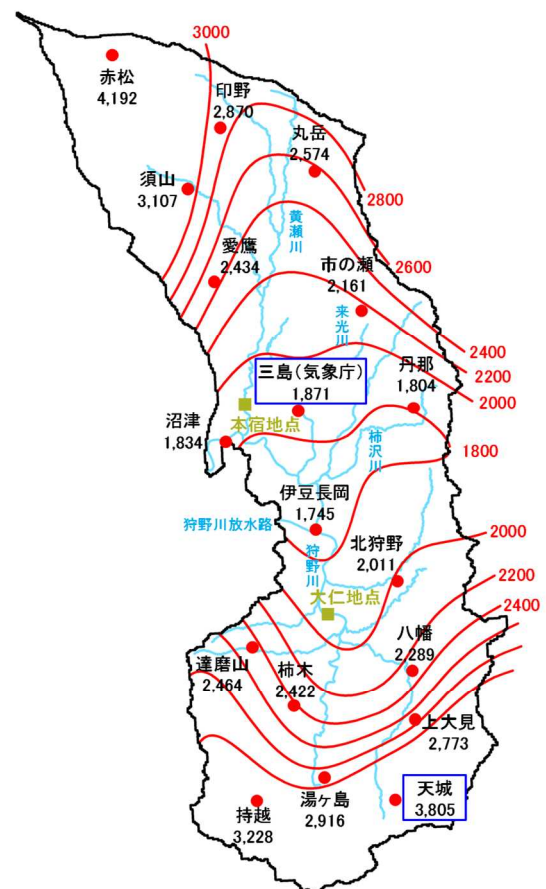
1-4 気候・気象

狩野川流域の気候は、流域のほぼ中央に位置する三島市において、年平均気温が約 16℃程度であり、温暖な気候となっている。

年間降水量（平成 3 年（1991 年）～令和 3 年（2021 年））は、本川上流域の天城山系や支川黄瀬川上流域の富士山麓部では 3,000mm を越える多雨地帯で、中下流の平野部では 2,000mm 前後となっている。上流の天城山系や富士山麓部では、降雨は梅雨期及び台風期に集中する傾向にある。また、狩野川流域は南北に長く、その両端に天城山系、富士山麓部が位置することから、降雨の時空間分布が大きく異なっている。



出典:国土交通省
水文・水質データベース



出典: 気象庁HP
国土交通省 水文・水質データベース

図 1-4-1 狩野川流域 平均気温・年間降水量

狩野川		主な地点	雨域
本川	上流域	大仁 ^{おおひと} （基準地点）	天城山麓
	下流域	徳倉 ^{とくくら} （主要な地点）	本川中・上流域、 支川大場川・来光川を含む
支川	黄瀬川	本宿 ^{ほんじゆく} （主要な地点）	富士山麓
	大場川	大場 ^{だいば} （主要な地点）	箱根山等
	来光川	蛇ヶ橋 ^{じやがばし} （主要な地点）	



図 1-4-2 狩野川流域 各支川上流域の雨域

2. 流域及び河川の自然環境

2-1 流域の自然環境

狩野川は、天城山系の溪谷を清流となって下り、その後田方平野を蛇行しながら河床勾配 1/100～1/1,800 で緩やかに流れ、下流沼津市街地等における良好な水辺空間を提供している。

天城山系を流下する上流部は、ブナやアカガシ、カエデ類等の自然植生が残された溪谷であり、河川には、ハコネサンショウウオ、モリアオガエル等の両生類やアマゴ、カジカ等の溪流魚が生息する。また浄蓮の滝など随所に点在する滝が変化に富む景観を形成している。

田方平野を蛇行しながら流下する中流部は、連続する瀬や淵と中洲などが見られ、アユ釣りで賑わっているとともに、水際から高水敷にかけてヨシ、オギ、ツルヨシ、カワヤナギ等が連続的に繁茂し、オオヨシキリをはじめとした多様な生物の生息・生育・繁殖地となっている。河道には瀬淵や洲が発達し、アユ、ウグイ、オイカワ、カマキリ（アユカケ）といった魚種が生息しているほか、「アユ友釣り発祥の地」でもあり、アユの産卵場が分布している。城山付近では、ヤマセミやカワセミといった鳥類をはじめ、県内では狩野川流域でしか見られないコオニヤンマ等の昆虫類の生息も確認されている。静浦山地はシイやカシ類の常緑広葉樹林が分布し、特にウバメガシの純林は我が国の北限に当たる。

市街地内を緩やかに流れる下流部は、静浦山地や沿岸域に残された緑地と、富士山や伊豆半島の眺望と市街地が融合した水と緑豊かな都市景観を形成している。また、河口部には小規模ながらもシギ、チドリ類の渡りの中継地ともなる干潟が存在している。

狩野川本川には堰等の横断工作物はなく、縦断的連続性が維持され、アユ、カマキリ（アユカケ）、ウツセミカジカ等の回遊魚が全川を通して確認されている。高水敷にはヨシ群落、オギ群落の他にセイバンモロコシ群落が分布している。

富士山、箱根山等を水源とする清冽な湧水から発する支川柿田川は、年間を通して水量・水質ともに安定し、ミシマバイカモをはじめとする希少な水生植物や、一般的には河川の中・上流部に生息するアマゴのほか、越冬アユ等が生息する。河岸には、落葉広葉樹や常緑広葉樹の河畔林が形成され、カワセミ・ヤマセミ等の鳥類や樹上生活のモリアオガエルが生息する。都市部にありながら類い希で貴重な自然環境を有しているが、近年はオオカワヂシャなどの外来種の侵入も見られ、在来の希少な水生植物への影響が懸念されている。



図 2-1-1 流域区分図

(魚類)

上流部には、山間の清流に棲むアマゴ、カジカ等の溪流魚が多く生息している。

中流部は、アユやカジカ、オイカワ、カワムツやコイ、フナ、ウグイ等の純淡水魚が生息しており、アユの産卵場となる瀬が点在している。

下流部では、ボラやハゼ、スズキといった汽水・海水魚が生息しており、コイ、フナ、ウグイ等の純淡水魚や、ウナギ、カマキリ（アユカケ）等の回遊魚も生息している。また、支川の柿田川では、アマゴ等清流に生息する種も確認されている。



アユ（産卵行動中）



カマキリ（アユカケ）

(植物)

上流部は、溪流に沿ってカシやカエデ類の自然植生が残されている。

中流部では、水際部を中心にヨシ、ツルヨシ、オギ、オオブタクサ群落が見られ、高水敷には、野鳥をはじめとする多様な生物の生息・生育・繁殖地となっているカワヤナギやメダケ群落等の河畔林がところどころに見られる。

下流部では、ヨシ、ツルヨシ群落のほか、セイバンモロコシ群落も出現している。

また、支川の柿田川は、ハンノキ等により河岸が緑で連続的に覆われており、河道内には清冽な水域でしか生育しないミシマバイカモや、レッドリスト記載種であるアカウキクサ、オオアカウキクサ、ヒンジモ、ナガエミクリが確認されている。



ミシマバイカモ



ヒンジモ

(鳥類)

上流部は、山間溪谷等に棲むヤマセミやカワセミ等が生息している。

中流部は、砂州や中州等の砂礫地に依存するサギ類やシギ類等が生息しており、高水敷のヨシ原には草地に依存するオオヨシキリやホオジロ等が生息している。また、城山付近は山と河川が隣接していることから鳥類の生息場として良好な環境を有しており、カワセミ、ヤマセミやチョウゲンボウ等の猛禽類をはじめ多くの鳥類が生息している。

下流部は高水敷のヨシ原にはオオヨシキリ等が生息しているほか、河口部にはカモ類の集団越冬地も確認されている。また、支川の柿田川では、良好な河川環境を反映し、一般的には河川の中上流部に生息するカワセミ、ヤマセミ等が確認されている。



チュウサギ



カワセミ

(両生類・爬虫類・哺乳類)

上流部では、山間溪流に棲むモリアオガエル等の両生類が見られる。

中・下流部では、クサガメやトカゲ、カナヘビ等の爬虫類や、アカネズミ等の哺乳類など、平地性の種が見られる。



クサガメ



アカネズミ

(昆虫類)

上流部では、静岡県内の他地域では見られなくなっているトンボ目のキイロサナエといった種が生息している。

中下流部では、草地依存型のヒナバッタやマルカメムシ、ヒメマダラメイガ等の種や、水域依存型のアカケシガムシ、ホソセスジゲンゴロウ等の種が多く確認されている。

また、支川柿田川では、良好な河川環境を反映し、アオハダトンボやダビドサナエ等の種が確認されている。



トノサマバッタ



アオハダトンボ

表 2-1-1 狩野川の特定種 (1)

分類項目	種名	下流部	中流部	上流部 ^{※1}	黄瀬川	柿田川	特定種選定基準						
							文化財	種の保存法	自然公園法	緑の国勢調査第一回	緑の国勢調査第二回	環境省 RL 2020	静岡県 RDB 2019
魚類	イッセンヨウジ	○											N-III
	ウツセミカジカ (降海回遊型)	○	○	○	○	○							VU
	オオガタスジシマドジョウ		○									EN	
	カジカ			○								NT	NT
	カマキリ	○	○	○	○	○					●	VU	VU
	カワアナゴ	○											N-III
	カワヨシノボリ	○	○										N-II
	ゲンゴロウブナ ^{※2}	○	○									EN	
	サツキマス (アマゴ)	○	○	○								NT	VU
	シマヒレヨシノボリ	○										NT	
	タカハヤ		○	○		○							N-II
	チチブモドキ	○											N-III
	テングヨウジ	○											N-III
	ドジョウ	○	○	○	○	○						NT	DD
	ニホンウナギ	○	○	○	○							EN	EN
	ヒナハゼ	○											N-III
	ヒガシシマドジョウ	○	○	○	○								N-II
	ホトケドジョウ			○								EN	EN
	ミナミメダカ	○	○	○		○						VU	CR
	ワタカ ^{※2}	○										CR	
底生動物	アサヒキスタレガイ	○										VU	
	アンナンデールヨコエビ					○						NT	
	イトアメンボ	○			○							VU	N-I
	エサキアメンボ	○										NT	N-III
	オヨギカピロアメンボ		○									NT	
	カトリヤンマ		○										NT
	キイロサナエ	○	○									NT	EN
	キボシツブゲンゴロウ					○						NT	DD
	ケスジドロムシ	○	○									VU	
	ゲンジボタル	○	○			○				●	●		
	コオナガミズスマシ		○									VU	
	コガムシ	○	○									DD	NT
	コシダカヒメモノアラガイ ^{※3}	○	○			○						DD	
	サクラガイ	○										NT	
	トウキョウヒラマキガイ	○	○									DD	NT
	ハザクラガイ	○										NT	
	ヒラマキガイモドキ		○										
	ヘイケボタル					○				●	●		N-III
	ホンサナエ	○	○									VU	
	マシジミ	○	○									VU	NT
植物	マルタニシ		○									VU	NT
	モノアラガイ		○			○						NT	NT
	ヤマトシジミ	○										NT	NT
	アカウキクサ					○						EN	VU
	オオアカウキクサ					○			●			EN	VU
	イワヨモギ	○										VU	
	ウスゲチヨウジタデ		○									NT	NT
	エゾウキヤガラ												N-III
	オトコエシ		○						●				
	カワヂシャ	○	○			○						NT	
	カワラナデシコ	○							●				
	コウヤボウキ		○						●				
	コギシギシ		○						●			VU	
	シュンラン					○			●				
	ツルニンジン		○			○			●				
	ナガエミクリ					○			●			NT	NT
	ニッケイ	○	○			○						NT	
	ネナシカズラ		○						●				
	ハマオモト	○							●				
	ヒメホタルイ	○							●				
	ヒンジモ					○						VU	VU
	フサモ					○							N-III
	ヘラオモダカ		○						●				

※1：上流部（指定区間）での河川水辺の国勢調査は魚類のみ実施している

※2：黄瀬川での河川水辺の国勢調査は魚類、底生動物、鳥類、河川環境基図のみ実施している

※3：ゲンゴロウブナ、ワタカは琵琶湖・淀川水系の種であり、狩野川では国内外来種にあたる

※4：コシダカヒメモノアラガイは自然分布の状況が不明なため、「外来種ハンドブック日本生態学会、地人書館、2002」で外来種としても指定されている

※5：緑の国勢調査：自然環境保全基礎調査

表 2-1-2 狩野川の特定種 (2)

分類項目	種名	下流部	中流部	上流部※1	黄瀬川	柿田川	特定種選定基準						
							文化財	種の保存法	自然公園法	緑の国勢調査第一回	緑の国勢調査第二回	環境省 RL 2020	静岡県 RDB 2019
植物	ミシマバイカモ					○							VU
	ミズマツバ	○										VU	NT
	ミゾコウジュ		○									NT	NT
鳥類	イカルチドリ	○	○		○					●			NT
	イソシギ	○	○		○	○				●			
	ウミアイサ	○								●			
	ウミスズメ		○									CR	
	ウミネコ	○	○							●			
	オオセグロカモメ	○	○							●		NT	
	オオソリハシシギ	○								●		VU	N-II
	オオタカ	○	○								●	NT	NT
	オカヨシガモ	○								●			
	オンドリ		○							●		DD	
	オナガガモ	○	○							●			
	オバシギ	○								●			
	カモメ	○	○							●			
	カワアイサ	○	○							●			
	カワウ	○	○		○	○				●			
	カンムリカイツブリ	○	○								●		
	キアシシギ	○	○		○					●			
	キョウジョシギ	○								●			
	キンクロハジロ	○	○			○				●			
	クサシギ		○							●			
	クロガモ		○							●			
	コアシサシ	○								●		VU	EN
	ゴイサギ	○	○		○	○				●			N-III
	コガモ	○	○		○	○				●			
	コサメビタキ	○											VU
	コンアカツバメ	○	○		○	○							VU
	コチドリ	○	○		○					●			
	コハクチョウ	○	○							●			
	ササゴイ	○	○		○								EN
	サシバ	○										VU	VU
	シロカモメ	○								●			
	スズガモ		○							●			
	セグロカモメ	○	○		○					●			
	チュウサギ	○	○									NT	
	チュウシャクシギ	○								●			
	ハイタカ	○	○								●	NT	
	ハチクマ		○								●	NT	VU
	ハンビロガモ	○	○			○				●			
	ハヤブサ	○	○					第一種			●	VU	VU
	ヒドリガモ	○	○		○	○				●			
	ホシハジロ	○			○					●			
	マガモ		○		○	○				●			
	マガン		○							●		NT	
	ミサゴ	○	○			○					●	NT	N-III
	ムナグロ		○							●			
	ヤマセミ	○	○		○	○				●			EN
	ユリカモメ	○	○							●			
	ヨシガモ	○	○							●			
両生類 爬虫類 哺乳類	カジカガエル		○										NT
	クサガメ	○	○										N-III
	カヤネズミ		○										NT
	ツチガエル	○	○										NT
	トノサマガエル	○	○									NT	NT
	ニホンイシガメ		○									NT	NT
	ニホンスッポン	○										DD	DD
	モリアオガエル					○				●	●		NT
陸上昆虫 類等	アイヌハンミョウ		○									NT	N-III
	アオハダトンボ		○			○						NT	NT

※1：上流部（指定区間）での河川水辺の国勢調査は魚類のみ実施している

※2：黄瀬川での河川水辺の国勢調査は魚類、底生動物、鳥類、河川環境基図のみ実施している

※3：緑の国勢調査：自然環境保全基礎調査

表 2-1-3 狩野川の特定期種 (3)

分類項目	種名	下流部	中流部	上流部※1	黄瀬川	柿田川	特定種選定基準						
							文化財	種の 保存法	自然 公園法	緑の 国勢調査 第一回	緑の 国勢調査 第二回	環境省 RL 2020	静岡県 RDB 2019
陸上昆虫 類等	オオチャバネセセリ	○	○			○							N-II
	オオハムシドロバチ		○								DD		
	カギモンハナオイアツバ		○								NT		
	キシタアツバ					○					NT		
	ギンイチモンジセセリ	○	○								NT	N-II	
	ケスジドロムシ		○								VU		
	ゲンジボタル		○			○				●			
	コガムシ	○	○								DD	NT	
	コムラサキ	○	○									N-II	
	サトキマダラヒカゲ		○			○						N-III	
	シジミガムシ	○	○			○					EN		
	ニッポンハナダカバチ	○									VU		
	ニホンカワトンボ		○			○						EN	
	ヒゲコガネ		○									NT	
	ヒメジャノメ		○			○						N-III	
	ヘイケボタル		○			○				●		N-III	
	ホソミオツネントンボ		○									NT	
	ホンサナエ		○									VU	
	マルチビゲンゴロウ		○									NT	
	モンズズメバチ		○									DD	
	ヤホシホソマダラ		○									NT	
	ヤマトアシナガバチ		○									DD	
	ヤマトセンブリ						○					DD	

※1：上流部（指定区間）での河川水辺の国勢調査は魚類のみ実施している

※2：黄瀬川での河川水辺の国勢調査は魚類、底生動物、鳥類、河川環境基図のみ実施している

※3：緑の国勢調査：自然環境保全基礎調査

表 2-1-4 狩野川における特定期種の選定基準

法令・調査等	対象分類項目
文化財保護法・文化財保護条例（文化財）	全項目
天然記念物（国天）	
特別天然記念物（特天）	
県指定天然記念物（県天）	
県指定特別天然記念物（県特天）	
市町村指定天然記念物（他天）	
絶滅のおそれがある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）	全項目
特定第一種国内希少野生動植物種（第一種）	
特定第二種国内希少野生動植物種（第二種）	
自然公園法	植物
国立・国定公園における植物の保護対策について（指定植物）	環境基図
富士箱根伊豆国立公園指定種	
第1回自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）	全項目
すぐれた自然調査（静岡県リスト掲載種）	
第2回自然環境保全基礎調査（緑の国勢調査）	魚類
日本の重要な淡水魚指定種	底生動物
日本の重要な昆虫類	鳥類
日本産鳥類の繁殖分布における希少種	両生類・爬虫類
日本の重要な両生類・爬虫類	陸上昆虫類等

法令・調査等	対象分類項目
環境省レッドリスト2020	全項目
絶滅（EX）	
野生絶滅（EW）	
絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	
絶滅危惧Ⅱ類（VU）	
準絶滅危惧（NT）	
情報不足（DD）	
絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	
静岡県レッドデータブック	全項目（魚類は東部、伊豆地域の指定）
絶滅（EX）	
野生絶滅（EW）	
絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）	
絶滅危惧Ⅱ類（VU）	
準絶滅危惧（NT）	
情報不足（DD）	
絶滅のおそれのある地域個体群（LP）	
要注目種（N-I 現状不明）	
要注目種（N-II 分布上注目種）	
要注目種（N-III 部会注目種）	

※特定期種とは、調査実施の参考とするために上記の文献に記載のあるものを整理したものです。

2-2 河川及びその周辺の自然環境

2-2-1 上流部

上流部には天城山系を流下し、ブナやアカガシ、カエデ類等の自然植生が残された溪谷があり、河川には、ハコネサンショウウオ、モリアオガエル等の両生類やサツキマス（アマゴ）、カジカ等の溪流魚やアユ、カマキリ（アユカケ）、ウツセミカジカ（回遊型）が生息する。

山間部にはニホンカモシカやニホンザル、ニホンイノシシ等のほ乳類が生息している。



2-2-2 中流部

中流部は田方平野を蛇行しながらゆるやかに流れ、連続する瀬淵や中洲などが見られる。「アユの友釣り発祥の地」でもあり、アユの産卵場も分布している。

水際から高水敷にかけては、ヨシやヤナギ類等の植生が広く分布している。

狩野川本川には堰等の横断工作物はなく、縦断的連続性が維持され、アユ、カマキリ（アユカケ）、ウツセミカジカ（回遊型）等の回遊魚が確認されている。

鳥類では、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、カワウ、セッカ、ヤマセミ、カワセミ等の生息が確認されている。

昆虫類では、コオニヤンマ、キイロサナエ、ダビドサナエ、オナガサナエ、ヒガシカワトンボ、オニヤンマ、ギンイチモンジセセリ、オオチャバネセセリ、コムラサキ、ミドリシジミ等の生息が確認されている。

狩野川中流部での特定種として魚類では5種、底生動物では11種、植物では9種、鳥類では34種、両生類・爬虫類・哺乳類では4種、陸上昆虫類等では18種が河川水辺の国勢調査で確認されている。



2-2-3 下流部

下流部は都市域を流下し、公園や広場など、まちづくりと一体となった河岸整備により、安らぎの水辺空間を提供している。また、小規模ながらもシギ、チドリ類の渡りの中継地としてやカモ類の集団分布地の機能をする干潟が存在する。

高水敷にはヨシ群落、オギ群落が分布している。

魚類ではアユ、カマキリ（アユカケ）、ウツセミカジカ（回遊型）等の回遊魚の他、干潟では汽水魚であるヒナハゼ、鳥類ではバン等の生息が確認されている。

狩野川下流部での特定種は魚類では15種、底生動物では12種、植物では7種、鳥類では40種、両生類・爬虫類・哺乳類では4種、陸上昆虫類等では6種が河川水辺の国勢調査で確認されている。



下流部（我入道、千本港付近）



二ホンウナギ



カマキリ



カモメ類の集団休憩地

2-2-4 黄瀬川

支川の黄瀬川は、御殿場市に源を発し富士山の噴火で流出した三島溶岩流の流域を南流して下流では扇状地を形成する、狩野川水系最大の支川である。アユ等の回遊魚やカワセミ、ヤマセミ、カモ類の鳥類など多くの生物の生息・生育・繁殖地となっている。

黄瀬川の特定種は魚類では5種、底生動物では1種、鳥類では14種が河川水辺の国勢調査で確認されている。



黄瀬川

2-2-5 柿田川

支川の柿田川は湧水を水源とし、年間通じて水量、水質ともに安定し、ミシマバイカモやナガエミクリをはじめとする希少な水生植物や、一般的には河川の中上流部に生息するアマゴのほか、越冬アユ等が生息する。

河岸には、ツリフネソウやハンノキ、落葉広葉樹や常緑広葉樹の河畔林が形成され、カワセミ、ヤマセミ等の鳥類が生息する。

貴重種（絶滅危惧種）は、ミシマバイカモ（植）、カワヂシャ（植）、ナガエミクリ（植）、オオアカウキクサ（植）、ウツセミカジカ（魚）、カマキリ（アユカケ）（魚）、アオハダトンボ（昆虫）等 27 種の生息が確認されている。

都市部にありながら類い希で貴重な自然環境を有しているが、近年はオオカワヂシャなどの外来種の侵入も見られ、在来の希少な水生植物への影響が懸念されている。

柿田川での特定種は魚類では 5 種、底生動物では 6 種、植物では 10 種、鳥類では 12 種、両生類・爬虫類・哺乳類では 1 種、陸上昆虫類等では 11 種が河川水辺の国勢調査で確認されている。



2-3 特徴的な河川景観や文化財等

2-3-1 観光及び景勝地

狩野川の上流部は、滑沢溪谷等の溪流景観をはじめとした自然景観に恵まれているとともに、浄蓮の滝や萬城の滝など、随所に点在する滝が変化に富む景観を形成している。また、溪流沿いに天城湯ヶ島温泉、修善寺温泉等の温泉地が点在しており、“いで湯”と“清流”の組み合わせが良好な景観を形成しているとともに、井上靖や川端康成をはじめとする多くの作家がこの地を訪れて、狩野川や流域の描写が描かれた優れた作品を残していることから、彼らの名や作品にちなんだ文学碑などが多く見られる。

中流部は、瀬・淵が交互に現れて緩やかに流れる川面と富士山や天城山系などの山々や、田方平野の水田が調和した田園的な狩野川特有の落ち着いた景観を形成している。特に、大仁橋から狩野川上流の天城山系を望む景観は伊豆八景の一つに選定されている。また、歴史の舞台となった源頼朝の流刑地である蛭ヶ小島や、北条氏にまつわる史跡なども残されている。

下流部は、静浦山地や都市部に残された緑地と富士山や伊豆半島の眺望と市街地が融合した水と緑豊かな都市景観を形成しており、富士山を遠景として都市部をゆったりと流れる狩野川の景観が特徴的となっている。また、沼津市上土地区では、市街地再開発事業と一体となって整備された階段護岸等が、都市部における良好な水辺空間を提供している。



楽寿園



柿田川公園



萬城の滝



流鏝馬神事

出典：表 2-3-1 に整理

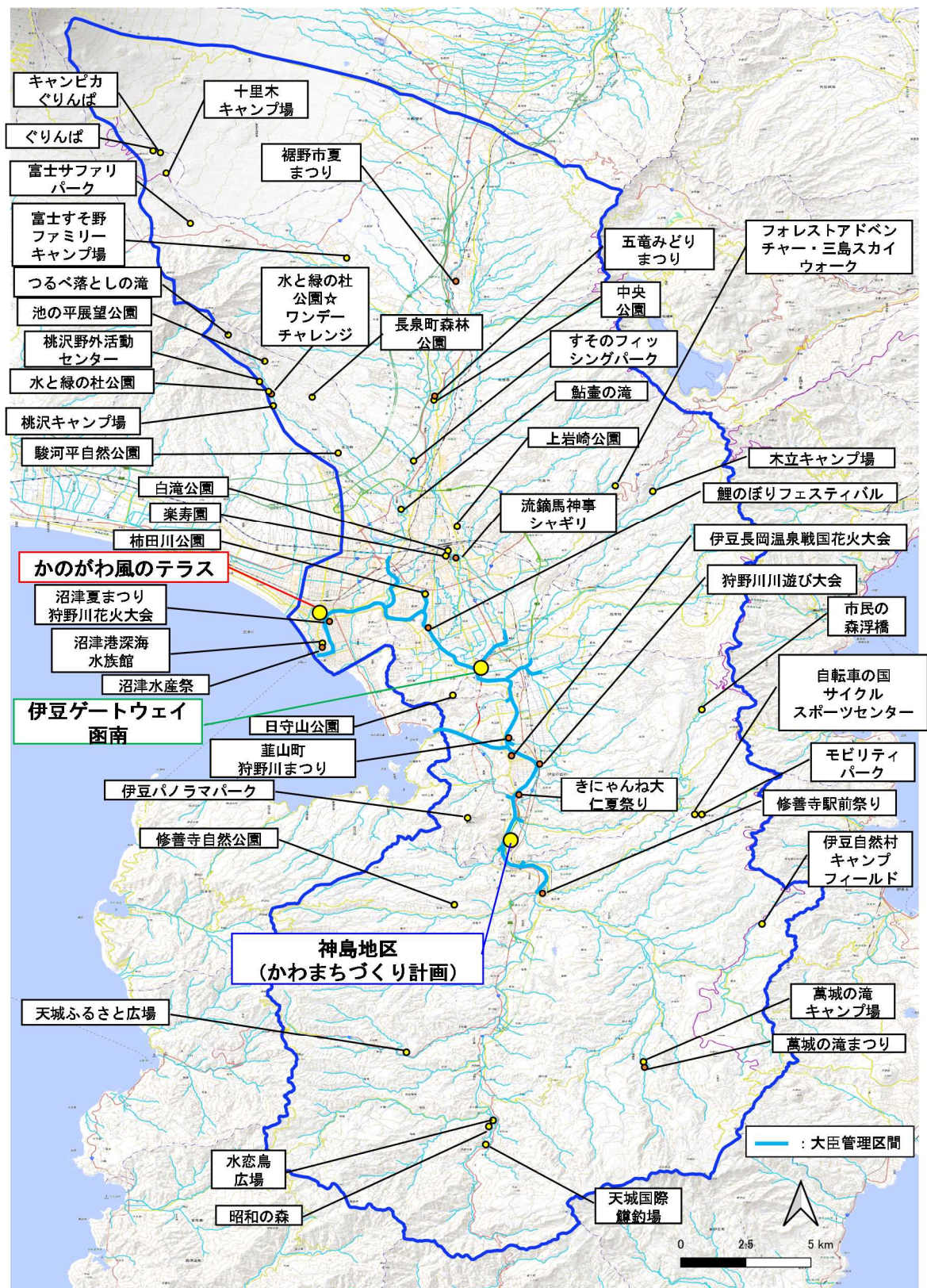
表 2-3-1 狩野川流域における主な観光資源一覧

●レジャー施設、公園

名称	市町村名	内容	出典
ぐりんば	姫野市	富士山 2 合目に位置し、雄大なローケーションを誇るファミリー向け遊園地。 5 階建て立体アスレチック「忍びの脱走」や立体カラリ道橋「コソコソ」、考えるアスレチック「ヒカノタマゴ」等、大人数で、体を使っておもしろ施設が人気。 冬はスケートや雪遊びが楽しめる。	姫野市観光パンフレット https://www.city.susono.shizuoka.jp/sos hiki/8/1/1/2/2111.html
キャンピカぐりんば	姫野市	近園地ぐりんば内にあるキャンプ場。	姫野市観光パンフレット https://www.city.susono.shizuoka.jp/sos hiki/8/1/1/2/2111.html
すそのフィッシングパーク	姫野市	西伊豆の水で育った大型魚が放流されている。ルアーやエサ釣りができるほか、バーベキューも楽しめる。	姫野市観光パンフレット https://www.city.susono.shizuoka.jp/sos hiki/8/1/1/2/2111.html
中央公園	姫野市	日本庭園造りの趣豊かな公園。園内には国指定重要文化財の旧藤松家住宅や長さ 63m の吊橋、若山牧水の歌碑などがある。 5 月、五竜の滝を背にいのぼりが掲揚される様子は、まるで鯉が滝をのぼっているかのようである。	姫野市観光パンフレット https://www.city.susono.shizuoka.jp/sos hiki/8/1/1/2/2111.html
十里木高原	姫野市	愛鷹山登山スタート地点の一つ。秋にはススキ野原の散策が楽しめる。 遊歩道を歩いて20分ほどのところに展望台があり、天気の良い日は麗々たる景色を楽しめる。 アシタガツメも野生しており、6月頃観察できる。	姫野市観光パンフレット https://www.city.susono.shizuoka.jp/sos hiki/8/1/1/2/2111.html
十里木キャンプ場	姫野市	標高1,000mを超える高原の中にあるキャンプ場。	姫野市観光パンフレット https://www.city.susono.shizuoka.jp/sos hiki/8/1/1/2/2111.html
富士サファリパーク	姫野市	のびのびと自由に暮らす動物と大接近できる「サファリゾーン」は、マイカーでも園内バスでも見学が出来る。 大人気の金剛象「ジャンプのバス」は庭園に大接近しエサをあげられ、迫力満点。かわいらしい動物ものれあい楽しめるのは「どうぶつ村」や「ふれあい牧場」。夜の野生動物をウォッチングする「ないとサファリ」や園内を歩きながら動物を観察する「カーオキングサファリ」も人気。	姫野市観光パンフレット https://www.city.susono.shizuoka.jp/sos hiki/8/1/1/2/2111.html
長泉町森林公園	長泉町	総面積12.9haの広大な「森の公園」です。展望台からは駿河湾や箱根の山々、伊豆半島を一望でき、四季を通じて愛鷹の自然が楽しめます。	長泉町HP https://www.town.nagazumi.lg.jp/indust ry_tourism/tourism/index.html
池の平展望公園	長泉町	森林公園の遊歩道を登りきると、愛鷹山中腹の標高846m、駿河湾を一望する壮大なパノラマがあなたを待っています。	長泉町HP https://www.town.nagazumi.lg.jp/indust ry_tourism/tourism/index.html
つるべ滝としの滝	長泉町	湯水滝の滝の水がなくなるため「幻の滝」とも呼ばれる。 人気ハイキングコース、梅雨明けから初夏までの期間、雨欠の翌日などがオススメで。	長泉町HP https://www.town.nagazumi.lg.jp/indust ry_tourism/tourism/index.html
駿河平自然公園	長泉町	長さ130mのつるべ「遊々橋」や、きれいな小川も流れています。 周辺にはビューステージや井上増文字館などもあり、文化の香りが漂う自然公園です。	長泉町HP https://www.town.nagazumi.lg.jp/indust ry_tourism/tourism/index.html
水と緑の杜公園	長泉町	桃沢川の自然と触れ合える親水公園です。 つり橋やビオトープゾーン、芝生広場や水遊びが楽しめる池もあり、お弁当を携帯すれば一日中楽しめます。	長泉町HP https://www.town.nagazumi.lg.jp/indust ry_tourism/tourism/index.html
桃沢野外活動センター	長泉町	桃沢の大自然の中、宿泊や野外体験活動ができます。 炊事場、キャンプ場などがあり、キャンプファイヤーも可能。	長泉町HP https://www.town.nagazumi.lg.jp/indust ry_tourism/tourism/index.html
桃沢キャンプ場	長泉町	キャンプ場様の桃沢川で川遊びもできます。 バーベキュー用の炉が8基あります	長泉町HP https://www.town.nagazumi.lg.jp/indust ry_tourism/tourism/index.html
楽寿園	三島市	三島駅前の趣豊かな市立公園。 富士山の雪解け水が湧く小浜池などの天然池泉と周囲の自然林からなる庭園は国の天然記念物及び名勝に指定されている。 どうぶつ広場にはアルパカ、ポニー、レッサーパンダなど可愛い動物がたくさん。	三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/ 三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/ 三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/ 三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/
白滝公園	三島市	公園なのに地面がボコボコ。 これは富士山の溶岩が露出した部分です。 約1万年前、富士山が噴火した時、溶岩が三島岳流れてきた証です。 公園内には湧き間が数か所あるので間近で綺麗な湧水をのぞいてみよう。	三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/ 三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/
フォレストアドベンチャー・三島スカイウォーク	三島市	往復560メートルの「ロングジップスライド」や様々なアスレチックコース等の体験ができます。	三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/ 三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/
上野崎公園	三島市	広い芝生の広場に、大きな木製遊具などが設置され、子供とゆっくり過ごせる市民公園。 春にはお花見も楽しめます。	三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/ 三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/
沼津港臨海水族館	沼津市	日本初の深海をテーマにした水族館！日本一不快駿河湾の深海生物や世界の深海生物を展示した深海に特化した水族館です。	沼津市観光ポータルHP https://numazukanko.jp/nomohlet/ かがわの森のテラスHP http://www.kanagawa.fun-numazu.info/
かがわの森のテラス	沼津市	沼津市の中心市街地を流れる狩野川の魅力と、そのすばらしいローケーションを活かしたお洒落な空間を演出し、水辺空間の雰囲気を楽しむんだ。 昼や夕方時間と過ごし方があるようにすることにより、にぎわいの場を創出している。	三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/ 三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/
柿田川川	清水町	柿田川は、国道 1 号のすぐそばを流れる、国指定天然記念物に指定された清流です。 富士山からの雪解け水が地中に湧き出る湧水群があることで知られ、「日本水百選」「21世紀に残したい日本の自然百選」などにも選ばれています。 柿田川に隣接した柿田公園内には第一、第二展望台からは、青く透き通った美しい水が湧き出る「湧き間」を見ることができ、湧水広場では無罪に水を入って湧き水の冷たさを体験することができます。 遊歩道を歩くこと、緑豊かな自然をミミパイク、タジボタル、カワセミなどの珍しい生物を見ることができ、休日にはピクニックや散歩で多くの人が訪れる人気スポットとなっています。	清水町案内マップ・パンフレット http://www.town.shimizu.shizuoka.jp/ch iki/chiki100149.html
日守山公園	南南町	日守山（正式名称大嵐山）は標高 191m。 頂上まで 800m（約 20分）の遊歩道を登れば富士山や田方平野を見わたせます。	南南町総合パンフレット「かんなんびず情報」HP https://www.town.kannami.shizuoka.jp/ka nko/nomohlet/index.html
川の駅 伊豆ゲートウェイ南南	南南町	南南堤本地区では「川の駅（伊豆ゲートウェイ南南）」及び「川の駅（河川防災ステーション）」と連携したレクリエーション等の場としての活用を検討している。	川の駅 伊豆ゲートウェイ南南町 https://www.izugatoway.com/
神島地区（かわまちづくり計画）	伊豆の国市	神島地区はウォーキングやランニング、サイクリングなど多様な形態で利用されているため、狩野川の自然を活かしたかわまちづくり計画に基づく自転車オフレードコースの整備等により、隣接した道の駅（伊豆のへそ）と連携したサイクリング拠点として活用が期待される。	伊豆の国市HP https://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/ bankou/kanko/izunokuninokankou.html
伊豆の国パノラマパーク	伊豆の国市	ロープウェイで山頂に登れば、富士山、駿河湾、天城連山など360度見晴れます。	伊豆の国市HP https://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/ bankou/kanko/izunokuninokankou.html
モリテリーパーク	伊豆の国市	女性に優しい歌謡スタイルのオートキャンプ場。 大人気のジャンボすべり台や海外遊具、昆虫の森、ホテルの星が整備され、大浴場を完備しています。	伊豆の国市HP https://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/ bankou/kanko/izunokuninokankou.html
市民の森 浮橋	伊豆の国市	静岡県水辺百選のひとつ、瀨川の源流部にある自然公園。 展望広場、水辺の広場、アスレチックに挑戦できる、「冒險遊び」など花と森と光の美しい公園です。 四季を通じて、さまざまな草花が咲き、秋には野生のキノコも顔を覗かせます。	伊豆の国市HP https://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/ bankou/kanko/izunokuninokankou.html
自転車の国サイクルスポーツセンター	伊豆の国市	おもしろアトラクションから本格的サイクリングコースまで自転車よりどりみどり。	伊豆の国市HP https://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/ bankou/kanko/izunokuninokankou.html
萬歳の滝キャンプ場	伊豆市	テントエリア36張分。 パンガローエリア10棟ロフトあり。	伊豆市観光情報サイト http://kanko.city.izu.shizuoka.jp/forml html?ci=58&id=2791
伊豆自然村キャンプフィールド	伊豆市	自然がいっぱいのキャンプ場です。 広い芝生サイトと林間サイトがあります。 6月はホテルがたくさんです。 近くに小川や沢もあり、湖の滝という静かに流れる滝もありです。 船のつかみ取りや名物のつり籠りもあります。	伊豆市観光情報サイト http://kanko.city.izu.shizuoka.jp/forml html?ci=58&id=2791
天城ふるさと広場	伊豆市	天城ドーム（人工芝）、体育館（アリーナ）、野球場、グラウンド、テニスコート、ゴルフ場など、様々なスポーツが楽しめるスポーツ総合公園です。 運動施設のほかに「天城ふるさと広場山荘」「スポーツヴィラAMAGI」などの宿泊施設も併設されています。	伊豆市観光情報サイト http://kanko.city.izu.shizuoka.jp/forml html?ci=58&id=2791
昭和の森	伊豆市	天城峠周辺の緑豊かな1,600haの森に作られた大自然公園「昭和の森」の中、天城の植物や動物といった自然をパネル・ビデオで紹介する「森の情報館」と『伊豆近代文学博物館（有料）』と『伊豆半島ジオパーク天城びじターセンター』とレストランがあります。	伊豆市観光情報サイト http://kanko.city.izu.shizuoka.jp/forml html?ci=58&id=2791
水島鳥島	伊豆市	美しく整えられた中庭は、わさび田、水車、もみじ林があり、また、修繕された井上増田邸を見ることが出来ます。 秋から初冬にかけては大変美しい紅葉が、訪れた人の目を楽しませてくれます。	伊豆市観光情報サイト http://kanko.city.izu.shizuoka.jp/forml html?ci=58&id=2791
天城国際競馬設け場	伊豆市	日本の競馬百選の伊豆の良馬「浄土の滝」を望む、省営の競馬場で、紅毛馬や「清流の女王」アマゴを放流しております。 自然の川を利用し、天城の自然の中で清流釣りをお楽しみいただけます。	伊豆市観光情報サイト http://kanko.city.izu.shizuoka.jp/forml html?ci=58&id=2791

●イベント、祭り

名称	市町村名	内容	出典
五竜みどりまつり	姫野市	観光協会による様々な無償配布や、緑化組合による苗木の展示販売等「みどり」にちなんだもののほか、市内の物産等の展示や販売等幅広く賑やかに開催される。	姫野市観光パンフレット https://www.city.susono.shizuoka.jp/sos hiki/8/1/1/2/2111.html
すその夏まつり	姫野市	毎年恒例となっている夏祭り。 夕刻になつてからの花火大会はもちろんのこと、灯籠流し、盆踊り大会、ジャンボビンゴ大会が行われる。	姫野市観光パンフレット https://www.city.susono.shizuoka.jp/sos hiki/8/1/1/2/2111.html
水と緑の杜公園☆ワンデチャレンジ	長泉町	「水と緑の杜公園」で行われる体験型イベントです。 川遊び、魚のつかみどり、野外料理、竹細工、ハイキングなど、水辺を中心に楽しく、おいしい、いろんな催しに挑戦してみませんか？	長泉町HP https://www.town.nagazumi.lg.jp/indust ry_tourism/tourism/index.html
流鏝馬神事	三島市	天下泰平・五穀豊穡を祈るこの神事は、800年を超える歴史を持ち、馬場を全速力で駆け抜ける馬上から3か所の儀を次々と献舞く勇壮な神事です。	三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/ 三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/
シャギリ	三島市	シャギリとは、讃岐を中心とした祭神で、三島市およびその周辺で地域ごとに伝承されてきました。 三嶋大祭りでは、地域ごとにその祭神を敬う「」	三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/ 三島市観光WEB https://www.mishima- bankou.com/nomohlet/
沼津夏祭り・狩野川花火大会	沼津市	7月最終の日曜日に関われる。 各自自治体のイベントや灯籠流し、花火大会、コンサートが開催される。	沼津市観光ポータルHP https://numazukanko.jp/nomohlet
沼津水産祭	沼津市	年間166万人が訪れる沼津随一の観光拠点「沼津港」で、行われる。	沼津市観光ポータルHP https://numazukanko.jp/nomohlet
こいのぼりフェスティバル	沼津市	こどもの日のお祭り。 御成橋上下流の河川敷に鯉のぼりが掲げられる。	沼津市観光ポータルHP https://numazukanko.jp/nomohlet
釜山町狩野川まつり	伊豆の国市	伊豆の国花火大会として、打ち上げ総数8,000発、各種イベント盛りだくさんの「きにゃんねだ仁夏祭り」、狩野川台風の慰霊の意味合いも含んだ歴史ある「釜山町狩野川まつり2018」、そして3日間の最後を飾る「伊豆長岡温泉戦国花火大会」と、3月ともそれぞれ趣の異なる花火大会が実施される。	伊豆の国市HP https://www.city.izunokuni.shizuoka.jp/ bankou/kanko/izunokuninokankou.html



2-3-2 文化財

狩野川流域は歴史や文化の舞台としてしばしば登場し、7～8世紀の古墳群や近世の史跡、名勝等様々な国指定文化財、県指定文化財が存在する。

表 2-3-2 狩野川流域における国指定文化財（史跡・名勝・天然記念物）

No.	種別	名称	指定年月日	所在地
1	史跡	伊豆国分寺塔跡	1956. 5. 15	三島市泉町
2	史跡	柏谷横穴群	1976. 2. 20	田方郡函南町
3	史跡	願成就院跡	1973. 2. 14	伊豆の国市寺家
4	史跡	上白岩遺跡	1978. 1. 27	伊豆市上白岩
5	史跡	北江間横穴群	1976. 12. 27	伊豆の国市北江間
6	天然記念物	地震動の擦痕	1934. 1. 22	伊豆の国市南江間
7	天然記念物	丹那断層	1935. 6. 07	田方郡函南町
8	史跡	伝堀越御所跡	1984. 10. 08	伊豆の国市四日町・寺家
9	史跡	菰山反射炉	1922. 3. 08	伊豆の国市
10	史跡	菰山役所跡	2004. 9. 30	伊豆の国市
11	史跡	北条氏邸跡（円成寺跡）	1996. 9. 05	伊豆の国市寺家・中条
12	天然記念物	三嶋大社のキンモクセイ	1934. 5. 01	三島市大宮町二丁目
13	史跡	山中城跡	1934. 1. 22	三島市山中新田、田方郡函南町
14	天然記念物	楽寿園	1954. 3. 20	三島市一番町

表 2-3-3 狩野川流域における県指定文化財（史跡・名勝・天然記念物）

No.	種別	名称	指定年月日	所在地
1	記念物・天然記念物	岡宮浅間神社のクス	1969. 5. 30	沼津市岡宮
2	記念物・天然記念物	鮎垂の滝	1996. 3. 12	沼津市大岡字吹込
3	記念物・天然記念物	永塚の大杉	1960. 2. 23	御殿場市
4	記念物・天然記念物	川柳浅間神社の杉	1963. 12. 27	御殿場市
5	記念物・天然記念物	景ヶ島溪谷屏風岩の柱状節理	1991. 3. 19	裾野市千福下細野
6	記念物・天然記念物	五竜の滝	1997. 3. 17	裾野市千福松ヶ窪
7	記念物・史跡	向山古墳群	1999. 3. 15	三島市谷田
8	記念物・天然記念物	御嶽神社の親子モッコク	1971. 3. 19	三島市
9	記念物・天然記念物	天地神社の樟	1952. 4. 1	函南町平井
10	記念物・天然記念物	春日神社の樟	1954. 1. 30	函南町大竹字神谷戸
11	記念物・天然記念物	修善寺の桂	1956. 5. 24	伊豆市修善寺奥山
12	記念物・天然記念物	天城の太郎スギ	1964. 10. 6	伊豆市湯ヶ島
13	記念物・天然記念物	浄蓮のハイコモチシダ群落	1964. 10. 6	伊豆市湯ヶ島
14	記念物・天然記念物	田沢のイヌマキ	1980. 11. 28	伊豆市
15	記念物・天然記念物	下白岩のレビドサイクリナ化石産地	1993. 3. 26	伊豆市下白岩 峯ノ上
16	記念物・天然記念物	益山寺の大もみじ	1955. 2. 25	伊豆市堀切
17	記念物・天然記念物	日枝神社のイチイカシ	1957. 5. 13	伊豆市修善寺
18	記念物・天然記念物	法泉寺のシダレザクラ	1964. 10. 6	伊豆市本柿木
19	記念物・天然記念物	青墳神社の枝垂イロハカエデ	1983. 9. 27	伊豆市青羽根



にらやまはんしゃろ
蕤山反射炉



北条氏邸跡



みしまたいしゃ
三嶋大社のキンモクセイ



やまなかじょう
山中城跡

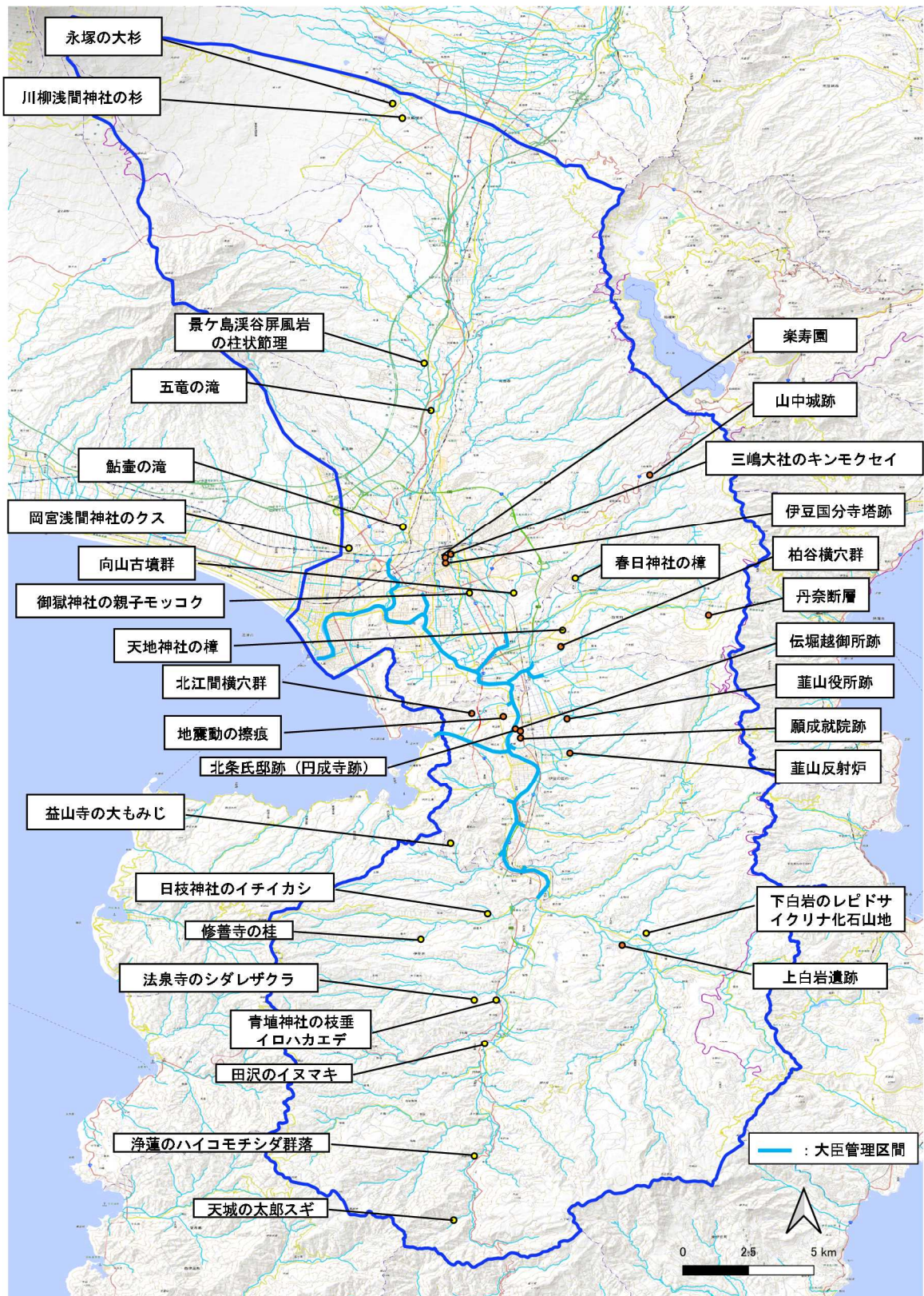


楽寿園



あゆつぼ
鮎壺の滝

出典：国指定文化財等データベース、しずおか文化財ナビ



2-4 自然公園等の指定状況

2-4-1 自然公園及び自然環境保全地域

狩野川流域の流域界周辺の山岳地帯を中心とした区域が、富士山周辺と箱根山、伊豆半島を中心とし、太平洋上の伊豆諸島を含む1都3県にまたがる広大な指定区域をもつ富士箱根伊豆国立公園に指定されている。

また、愛鷹山、函南原生林の2ヶ所が自然環境保全地域に指定されている。

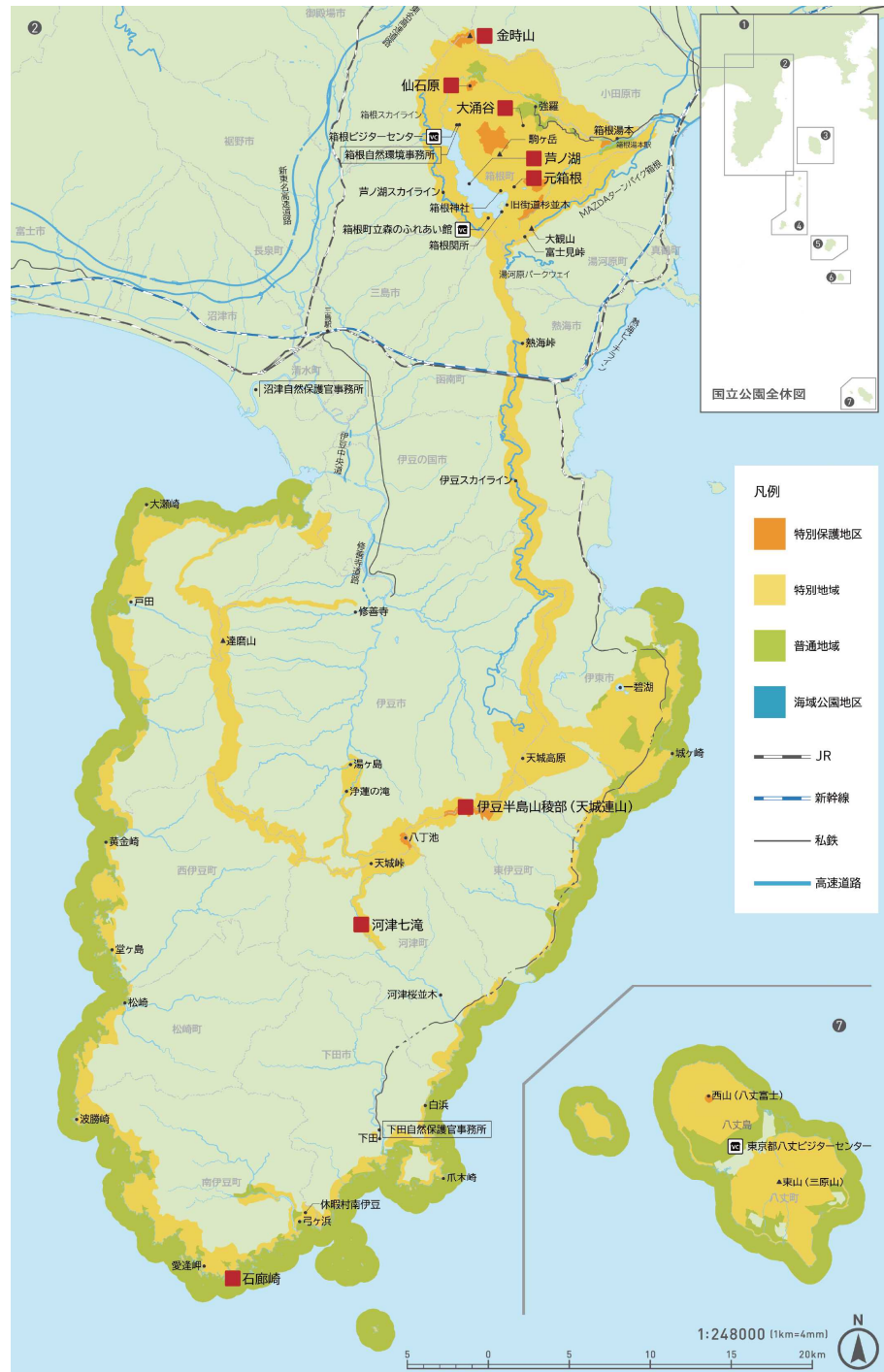


図 2-4-1 狩野川流域における自然公園等

出典：環境省富士箱根伊豆国立公園地図（富士山・箱根地域、伊豆半島地域抜粋）

2-4-2 鳥獣保護区

狩野川流域は、富士箱根伊豆国立公園周辺の山岳地域を中心に 23 ヶ所の鳥獣保護区が指定されており、富士山南麓と愛鷹山の 2 ヶ所が特別保護地区に指定されている。

表 2-4-1 狩野川流域における鳥獣保護区等一覧

項目	対象番号	名称
特別保護地区	1	富士山南鳥獣保護区特別保護区
	2	愛鷹山鳥獣保護区特別保護区
鳥獣保護区	6	愛鷹山鳥獣保護区
	7	香貫山鳥獣保護区
	8	箱根鳥獣保護区
	16	御殿場鳥獣保護区
	18	伊豆市修善寺鳥獣保護区
	19	田中山鳥獣保護区
	20	函南町鳥獣保護区
	21	韮山町鳥獣保護区
	22	天城高原鳥獣保護区
	23	天城鳥獣保護区
	24	裾野市聖心鳥獣保護区
	25	日本ランド鳥獣保護区
	26	須走鳥獣保護区
	57	鹿ヶ谷鳥獣保護区
	65	天城中学校野鳥愛護林
	66	須山小学校野鳥愛護林
	67	裾野市深良小学校野鳥愛護林
	68	御殿場市印野小学校野鳥愛護林
	85	伊豆市上船原鳥獣保護林
	90	箱根西麓鳥獣保護区
	93	香貫山東鳥獣保護区
	99	玉沢鳥獣保護区
	103	市民の森浮橋鳥獣保護区
特定猟具（銃）使用禁止区域	5	葛城山特定猟具（銃）使用禁止区
	11	三島市北原菅特定猟具（銃）使用禁止区域
	15	平山特定猟具（銃）使用禁止区域
	48	狩野川特定猟具（銃）使用禁止区域
	57	柿沢川特定猟具（銃）使用禁止区域
	58	灰塚特定猟具（銃）使用禁止区域
	84	丹那特定猟具（銃）使用禁止区域

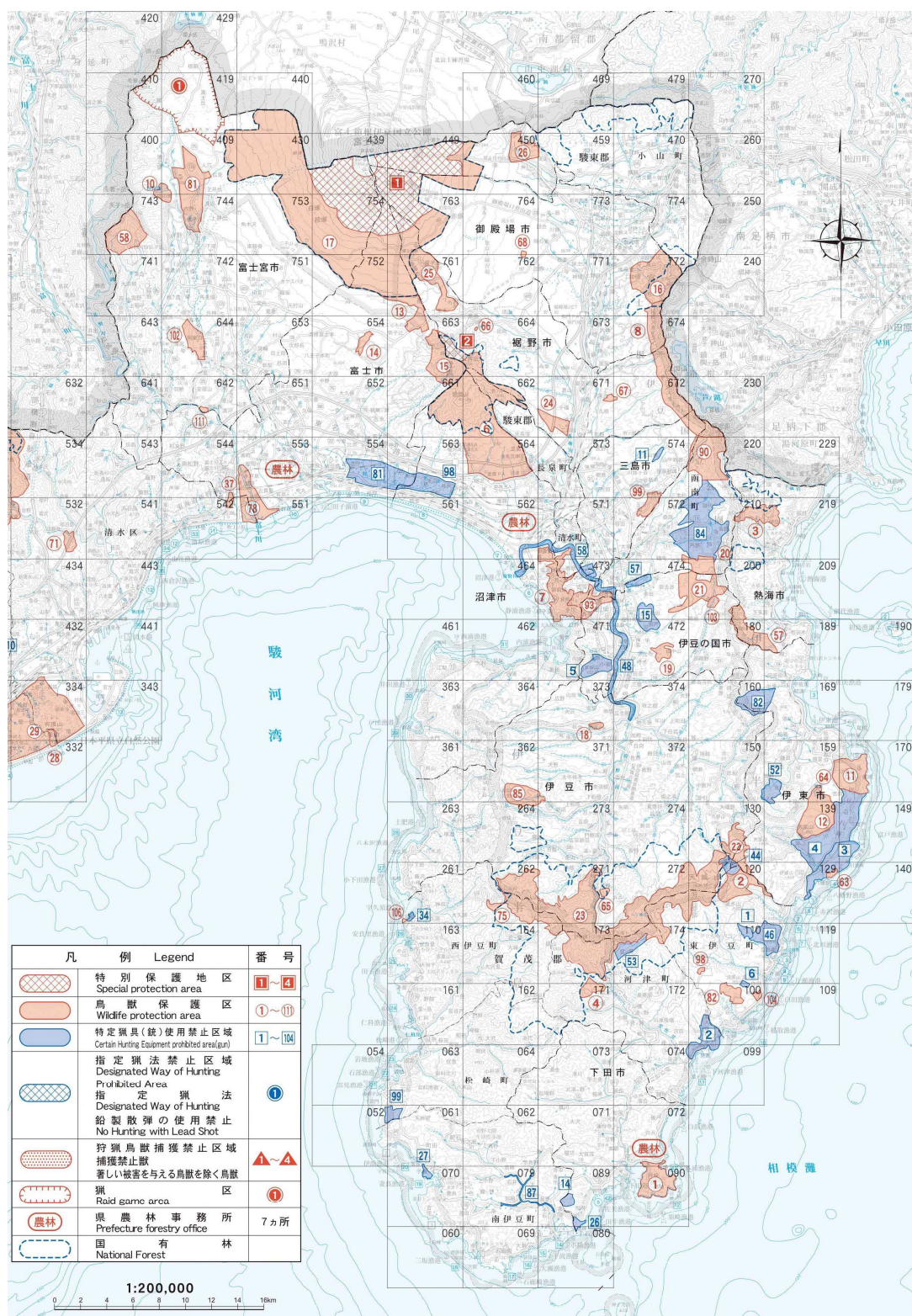


図 2-4-2 狩野川流域の鳥獣保護区

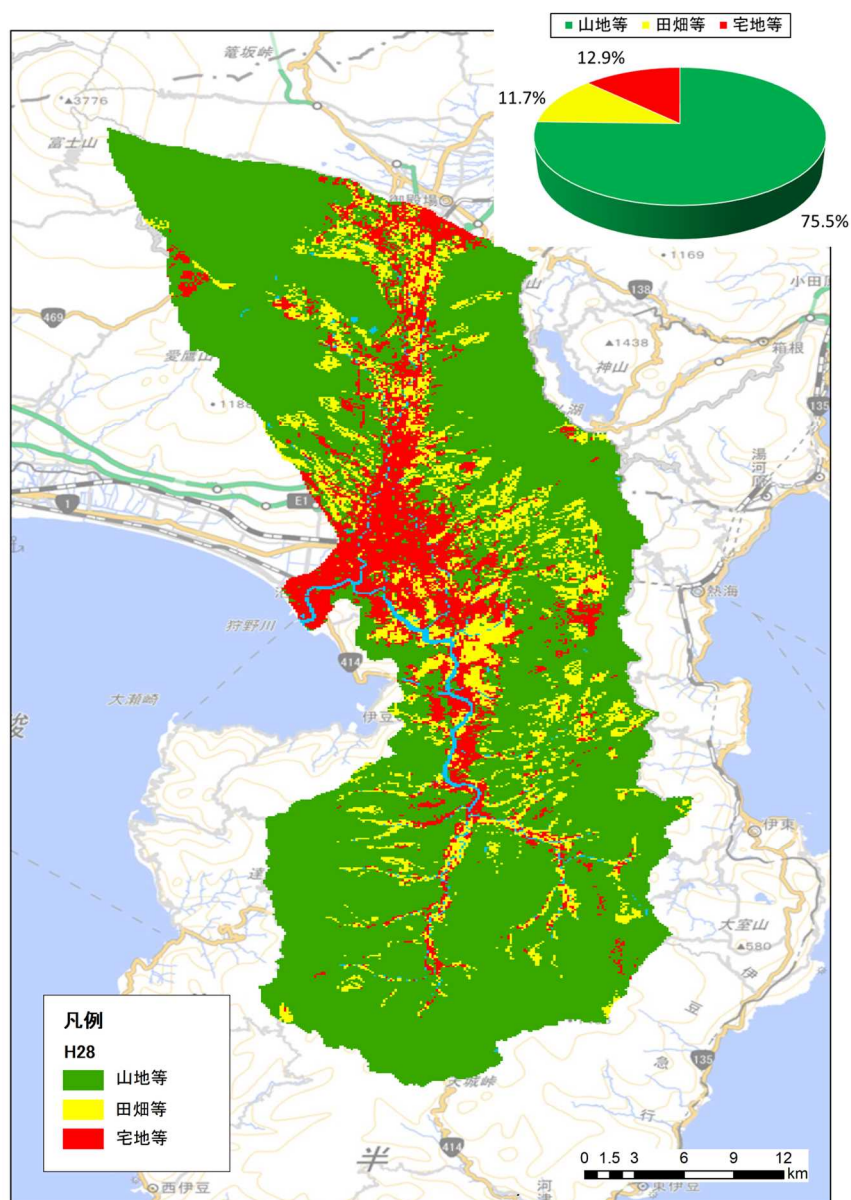
出典：静岡県鳥獣保護区等位置図

3. 流域の社会状況

3-1 土地利用

静岡県全体の面積に対する狩野川流域面積（852km²）の割合は約 11%である。

流域の土地利用状況は、山地等が約 75%、水田や畑地等の農地が約 12%、宅地等の市街地が約 13%となっている。



出典：国土数値情報（平成28年）

図 3-1-1 狩野川流域 土地利用状況

3-2 人口

狩野川流域は駿豆地区の中核都市である沼津市をはじめとする6市3町からなり、流域の関係市町の令和2年（2020年）の人口は、約65万人である。

過去30年の人口推移は概ね横ばいで推移しているが、高齢化率は約10.8%から約30.1%と大きく変化している。

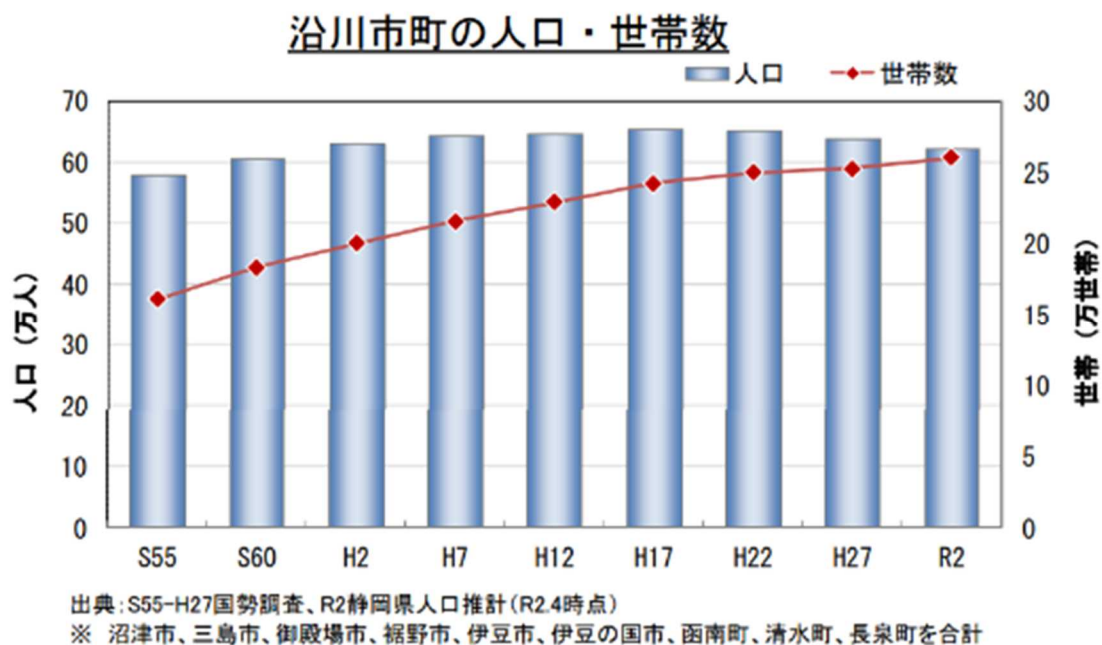


図 3-2-1 狩野川流域内人口の推移（国勢調査）

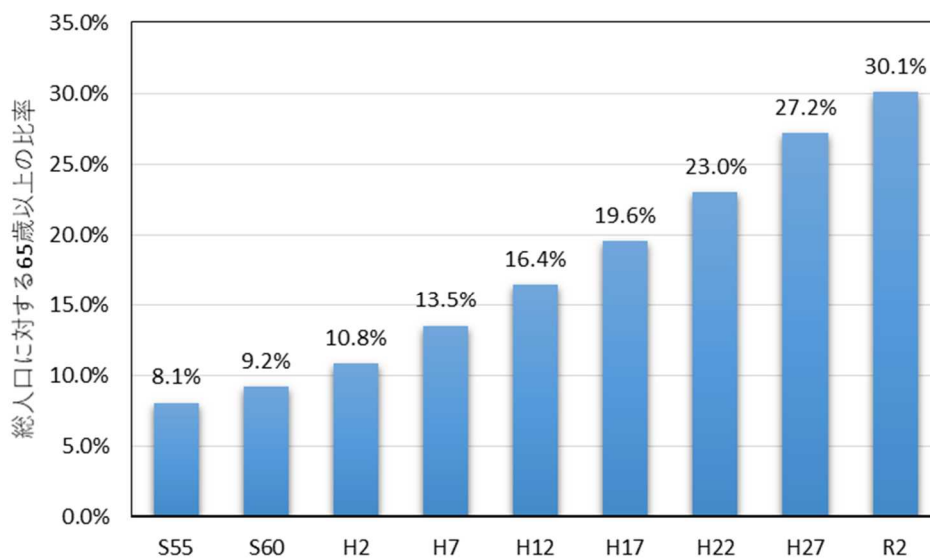


図 3-2-2 狩野川流域内高齢化率の推移（国勢調査）

3-3 産業と経済

狩野川流域は風光明媚な地であり、修善寺温泉発祥の湯といわれる独鈷^{とっこ}の湯をはじめ、修善寺や伊豆長岡^{いずながおか}などの温泉地が点在し、平成 27 年（2015 年）7 月に世界文化遺産に登録された韮山反射炉などの観光資源が多数あることから、年間 1 千万人を超える観光客が訪れており、観光業が盛んである。また、上流域の伊豆市は静岡県内有数のワサビの生産地であり、産出額や栽培面積で日本一を誇る静岡県のワサビ栽培を支えている。

中下流域は、古くから豊富な水量、良好な水質を背景に繊維業、製糸業、醸造業が発達してきており、東駿河湾工業整備特別地域^{ひがしするがわん}の一部として、恵まれた湧水及び地下水等の工業用水や交通網の発達を背景に、主要な産業である機械、輸送機械、金属、食料品等多様な産業が立地している。さらに、静岡県のファルマバレープロジェクトの推進により、静岡県立静岡がんセンターや、バイオテクノロジーを活用した医療品産業などの研究開発施設の立地が進むほか、新たな産業が展開している。

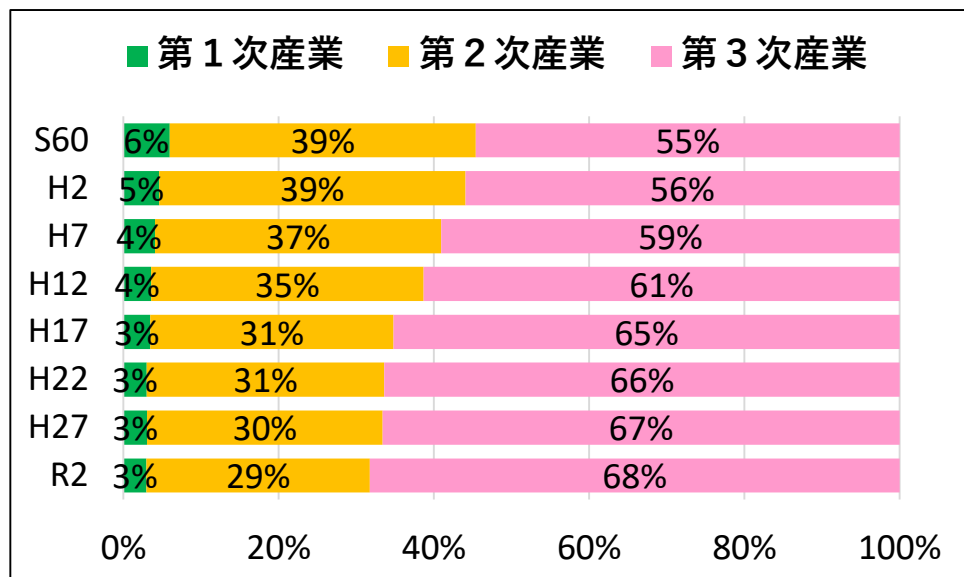


図 3-3-1 狩野川流域の産業別就業者数の割合

【出典：国勢調査】

3-4 交通

狩野川では、かつて舟運が盛んであり、江戸時代には伊豆と結ぶ日常の物資の運送路として盛んに使用されていた。また、川を渡るために渡し船が利用され、河口部における「我入道がにゅうどうの渡し船」は明治から昭和にかけて、庶民の身近な交通手段となっていた。

道路網の整備が進むと物資の輸送は陸上交通が中心となり、かつての舟運はなくなり、橋梁が整備されるとともに渡し船も姿を消した。

狩野川流域と他地域を結ぶ交通網として、昭和 39 年（1964 年）に東海道新幹線が開通、昭和 44 年（1969 年）に東名高速道路が全通し、下流域の沼津市や三島市は我が国の動脈が集中する交通の要衝となり、地域の社会、経済が下流域を中心に急速な発展を遂げている。さらに、この地域は伊豆や富士といった観光地への拠点となっていることから、これらの観光地へ向かう交通網が流域内を縦横に発達している。

近年では、新東名高速道路の一部開通（平成 24 年（2012 年））、伊豆縦貫自動車道のうち東駿河湾環状道路（三島塚原みしまつかはら～函南塚本間かんなみつかもと）（平成 26 年（2014 年））、天城北道路（大平おおだい～月ヶ瀬つきがせ間）（平成 31 年（2019 年））の開通など、整備は着実に進んでおり、沿線では工業団地の開発が進んでいる。

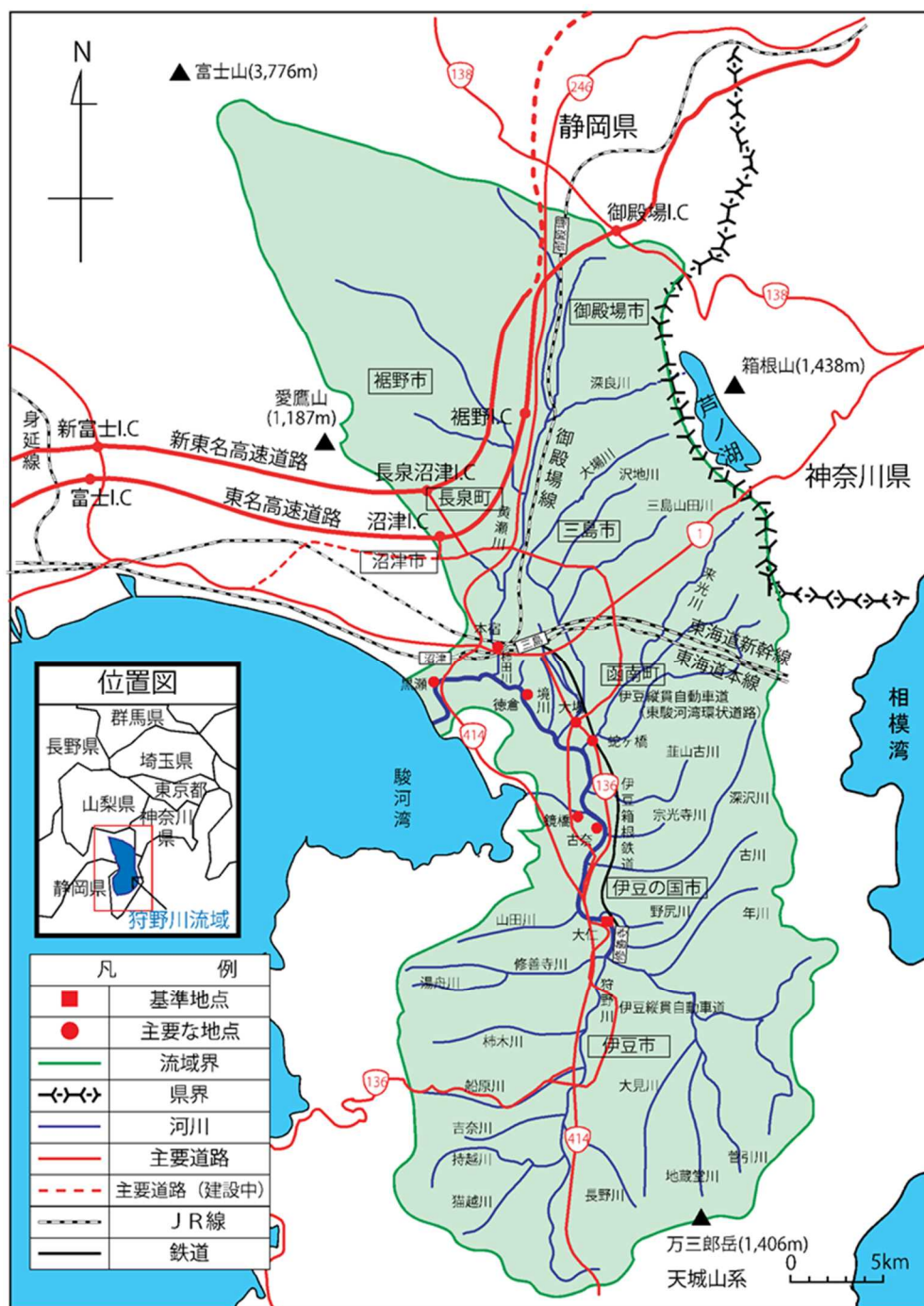


図 3-4-1 狩野川水系における交通網図

4. 水害と治水事業の沿革

4-1 既往洪水の概要

狩野川は、長い歴史の中、幾多の洪水氾濫を繰り返し、沿川の人々の生命と暮らしを脅かしてきた。

8世紀以降、狩野川の水害の記録で最も古いのは、和銅2年（709年）の長雨による洪水で、稲苗の被害大と記録されている。水害の記録は、江戸時代に入ると、記録に残っている大規模のものだけでも40回、明治時代に42回、大正時代に20回残されており、ほぼ1年に1回は大規模な洪水に襲われていたことになる。また、昭和に入ってからでも狩野川は洪水氾濫を繰り返し、特に昭和33年（1958年）9月の台風22号（狩野川台風）は、流域全体で死者・行方不明者853人、被災家屋6,775戸という未曾有の大災害をもたらした。

近年は、堤防整備の進捗と昭和40年（1965年）の狩野川放水路完成により狩野川本川の氾濫による甚大な被害は発生していないが、近年の集中豪雨により、支川の内水氾濫を主な原因とした浸水被害が発生している。

表 4-1-1 狩野川水系における大正以前の主要洪水

元号	洪水年月日		摘要
	和暦	西暦	
明治以前	寛文11年	1671. 8. 27	「亥の満水」沿川一帯満水、人畜の死傷大
	元禄元年	1688. 7. 22	「辰の満水」沿川一帯満水、人畜の死傷小
	寛政3年	1791. 4. 8	「第2の亥の満水」2丈3尺（約7m）の増水 田方平野はほとんど泥海
	安政6年	1859. 6. 25	「未の満水」2丈3尺（約7m）の増水 大仁から守木、一大湖水
	文久2年	1862. 8. 24	2丈2寸（約6. 7m）の増水
明治	明治17年	1884. 9. 15	狩野川を始め大小支川氾濫、家屋流失、橋の流失 葦山町四日町では床上7寸の浸水
	明治23年	1890. 8. 25	狩野川沿川の田畑、収穫皆無、葦山町四日町では床上7寸、 放水路計画の陳情
	明治36年	1903. 10. 1	2丈1寸4尺（約6. 5m）の増水、人家、作物に被害甚大、葦山 では床上浸水6・7尺、修善寺温泉では旅館流失
	明治40年	1907. 8. 23	田方平野一面の泥海、函南では浸水7日間
	明治43年	1910. 8. 10	田方平野一面の泥海、家屋流失の被害大、葦山町四日町で は床上5寸、御園で2丈7尺の増水
大正	大正3年	1914. 8. 29	「亥の満水」と同規模の出水、葦山町四日町では床上2尺6 寸、死者11名、負傷者4名
	大正9年	1920. 9. 30	葦山町四日町の床上2尺8寸の浸水、30日午前2時～午後10時 までの降雨量は173mm。大仁町、田中山に山津波が起こり深 沢川が氾濫。死者18人、負傷者1人、行方不明10人、全壊家 屋12棟、流失住家52棟、床上浸水1,908棟、床下浸水665 棟、田畑浸水2,270町歩
	大正11年	1922. 8. 23	狩野川沿岸の肥田附近の増水は平水位よりも1丈8尺、葦山 町の四日町山田宅では、床上6分の浸水、この年はこのほか に2回出水した。
	大正13年	1924. 9. 16	狩野川沿岸の肥田附近の増水は、平水位上1丈9尺4寸、葦山 町の四日町山田宅床上1尺8寸の浸水、被害は田方郡役所調 査によれば、堤防決潰49ヶ所、道路埋没流失14ヶ所、橋梁 流失5ヶ所、浸水耕地1,433. 6町歩、床上浸水1,902戸、床下 浸水2,034戸等。

表 4-1-2 狩野川水系における近年の主要洪水

発 生 年 月 日	原因	雨 量 (mm)	地点流量 (m ³ /sec)	被害等
昭和23年（1948年） 9月16日	台風21号 (アイオン台風)	301*	-	床上浸水346戸、床下浸水222戸 (静岡県異常気象災害誌)
昭和33年（1958年） 9月17日	台風21号	229	**約930	負傷者1名 家屋全壊1戸、半壊4戸 床上浸水117戸、床下浸水217戸 (三島市誌)
昭和33年（1958年） 9月26日	台風22号 (狩野川台風)	533	約4,000	死者684名、行方不明169名 家屋全壊261戸、流失697戸、 半壊647戸 床上浸水3,012戸、床下浸水2,158戸 (静岡県誌)
昭和34年（1959年） 8月14日	台風7号	302	約1,500	死者3名、負傷者34名 家屋全壊128戸、半壊537戸 床上浸水1,308戸、床下浸水2,094戸 浸水面積416ha (狩野川放水路工事誌)
昭和36年（1961年） 6月28日	前線	401	約2,200	家屋全壊9戸、流失29戸、半壊1,195戸 床上浸水6,608戸、床下浸水6,366戸 浸水面積5,000ha (水害統計)
昭和51年（1976年） 8月9日	前線	71	*約1,000	床上浸水44戸、床下浸水269戸 (水害統計)
昭和57年（1982年） 8月3日	台風10号	348	約2,200	床上浸水575戸、床下浸水878戸、浸水面積794ha (水害統計)
昭和57年（1982年） 9月12日	台風18号	385	約2,300	家屋全壊流失1戸 床上浸水190戸、床下浸水449戸 浸水面積302ha (水害統計)
平成10年（1998年） 8月30日	前線	242	約900	家屋全壊3戸、半壊2戸 床上浸水284戸、床下浸水481戸 浸水面積371ha (水害統計)
平成10年（1998年） 9月15日	台風5号	317	約2,200	床上浸水62戸、床下浸水144戸 浸水面積148ha (水害統計)
平成14年（2002年） 10月	台風21号	230	約1,900	家屋全壊1戸、半壊2戸 床上浸水975戸、床下浸水280戸 浸水面積93ha (水害統計)
平成16年（2004年） 10月	台風22号	334	約2,400	家屋全壊4戸、半壊2戸 床上浸水351戸、床下浸水623戸 浸水面積147ha (水害統計)
平成17年（2005年） 8月	台風11号	326	約1,700	床上浸水50戸、床下浸水142戸 浸水面積80ha (水害統計)
平成19年（2007年） 9月	台風9号	454	約1,600	床上浸水247戸、床下浸水477戸 浸水面積428ha (水害統計)
平成23年（2011年） 9月	台風15号	288	約1,600	床上浸水4戸、床下浸水11戸 (市町調べ)
令和元年（2019年） 10月	令和元年 東日本台風	589	約2,300	床上浸水623戸、床下浸水627戸 (国土交通省 災害情報)
令和3年（2021年） 7月	前線	205	*約1,100	家屋全壊1戸 床上浸水9戸、床下浸水13戸 (国土交通省 災害情報)

注1) 雨量は大仁上流でのティーセン分割による流域平均24時間雨量。単位：mm/24h

ただし*印は湯ヶ島雨量観測所日雨量。単位：mm/日

注2) 地点流量は大仁地点流量（出典：流量年表）。

ただし*印は本宿地点流量（黄瀬川）、**印は木瀬川地点流量（黄瀬川）。単位：m³/s（出典：流量年表）

注3) 被害等は集計上、支川被害、内水被害等を含む。

・昭和 33 年 9 月洪水（1958 年）（台風 22 号…狩野川台風）

昭和 33 年（1958 年）9 月 26 日、伊豆半島に接近した台風 22 号（狩野川台風）は、狩野川上流域で時間雨量 80～120mm、総降雨量 700mm を越える未曾有の豪雨をもたらし、天城山系一帯では約 1,200 箇所、山腹、溪岸崩壊が発生し、土石流の発生などにより上流域に多大な被害を与えた。また、中下流域では至るところで堤防が決壊（破堤 15 箇所、延長 6,607m、欠壊 7 箇所）、氾濫し、氾濫面積は 3,000ha にも達し、田方平野は泥海と化した。さらに、台風通過が夜間であったのも被害に拍車をかけ、狩野川流域内で死者・行方不明者 853 名、家屋被害 6,775 戸と未曾有の大災害となった。



田方平野の浸水

表 4-1-3 人及び家屋の被害状況

市町村名		人　　的　　被　　害					家　　屋　　被　　害					
		死者 (人)	行方不明 (人)	重傷者 (人)	軽傷者 (人)	計 (人)	全壊 (戸)	流出 (戸)	半壊 (戸)	床上浸水 (戸)	床下浸水 (戸)	計 (戸)
下 流 域	修 善 寺 町	337	127	81	133	678	21	247	59	53	118	498
	大 仁 町	202	18	75	161	456	41	147	71	179	312	750
	伊豆長岡町	2	—	3	23	28	4	3	20	618	115	760
	韭 山 町	66	2	62	150	280	50	128	206	874	68	1,326
	函 南 町	2	—	—	3	5	8	—	93	453	78	632
	三 島 市	—	—	—	—	—	—	—	3	218	159	380
	清 水 町	—	—	—	—	—	—	—	—	14	7	21
沼 津 市	—	—	—	—	—	1	—	8	270	810	1,089	
小　　計		609	147	221	470	1,447	125	525	460	2,679	1,667	5,456
上 流 域	上 狩 野	5	4	7	—	16	32	52	54	53	167	358
	中 狩 野	—	—	—	2	2	15	1	33	64	22	135
	中伊豆町	67	16	22	10	115	84	110	78	180	240	692
	北 狩 野	3	2	—	3	8	5	9	22	36	62	134
	小　　計	75	22	29	15	141	136	172	187	333	491	1319
合　　計		684	169	250	485	1,588	261	697	647	3,012	2,158	6,775

※なお伊豆半島全域 C は死者、行方不明者数約 930 名となる。

出典：静岡県誌

・平成 10 年 8 月洪水（1998 年）

本州上に前線が停滞し、この前線に向かって中型で強い台風 4 号から暖かく湿った気流が流れ込み、大気の状態が非常に不安定になった。そのため、南から次々と発達した雨雲が静岡県中部、東部、伊豆地方に入り、局地的に雷を伴った大雨が断続的に降った。

8 月 26 日から降り始めた雨は、28 日には、湯ヶ島^{ゆがしま}、天城^{てんじょう}、持越^{もちこし}で時間雨量 60mm 以上を観測するとともに、30 日までの累計雨量は上大見^{かみおおみ}で 582mm、丹那^{たんな}で 506mm の既往最大雨量を記録し、天城では、687mm もの総雨量を記録した。特に、上大見は昭和 33 年（1958 年）9 月 26 日の狩野川台風^{かきさわ}を越える雨量であった。この結果、柿沢、来光川の氾濫により約 370ha が浸水し、家屋の被害は、全半壊、床上、床下浸水等、770 戸に達した。その他、国道 136 号、伊豆箱根鉄道をはじめとする交通網の寸断などの被害が発生した。



来光川・柿沢川の出水状況（H10. 8. 30）

・令和元年 10 月洪水（2019 年）（台風 19 号…令和元年東日本台風）

台風第 19 号は、10 月 6 日 3 時に南鳥島近海で発生し北上、12 日 17 時過ぎには伊豆半島の西南西の海上で、中心の気圧が 945hPa の大型で強い台風となった。

狩野川流域では、湯ヶ島雨量観測所で昭和 33 年（1958 年）9 月の狩野川台風を超える総雨量約 780mm を記録し、洪水予報対象観測所の徳倉・本宿水位観測所で氾濫危険水位を超えた。また、他の水防警報対象観測所では、鏡橋・大場・蛇ヶ橋水位観測所で避難判断水位を超え、大仁・千歳橋・黒瀬水位観測所で出動水位を超えた。

内水氾濫により、床上浸水 623 戸、床下浸水 627 戸の被害をもたらしたが、狩野川放水路の整備等により狩野川本川からの氾濫を防ぐことができ、人的被害をゼロに抑えることができた。



沼津市大平地区（内水）

・ 令和3年7月洪水（2021年）

本州上に前線が停滞した影響で、静岡県では7月1日から断続的に雨が降り続き、7月3日深夜には黄瀬川の西部の愛鷹雨量観測所で1時間75mmを観測し、総雨量721mmを記録する非常に激しい雨となった。

黄瀬川の本宿水位観測所では氾濫危険水位を超え、黒瀬・徳倉・大場・蛇ヶ橋水位観測所では出動水位を超えた。この結果、黄瀬川では黄瀬川大橋の橋脚、橋梁の損傷、護岸の崩落などの被災が発生した。



黄瀬川大橋橋脚、橋梁の損傷

4-2 治水事業の沿革

(1) 治水事業の沿革

狩野川は流域の地形条件、気候条件から、古来より洪水に悩まされており、狩野川の治水事業は、田方平野を洪水から守るため、鎌倉時代に守山を開削し、流路を守山の西に付け替えたのが始まりといわれている。

江戸時代には、洪水の度に決壊する堤防を、菰山代官の江川太郎左衛門が修理したという記録も残っており、放水路建設の計画も立てられていた。

狩野川における本格的な改修工事は、直轄工事に着手した昭和2年(1927年)より始まった。この計画は、大正9年(1920年)、11年(1922年)の洪水を基に計画されたものであり、本川大仁地点における計画流量を $1,700\text{m}^3/\text{s}$ とし、本川の浚渫、掘削をもって洪水を本川のみで流下させるものであった。しかし、流域はその後も度々洪水被害を受け、甚大な被害が生じたことから、当初計画の本川の浚渫、掘削のみでは河積の確保が困難であると判断され、昭和23年(1948年)9月のアイオン台風による洪水を鑑み、昭和24年(1949年)に、旧伊豆長岡町壺之上から $1,000\text{m}^3/\text{s}$ を分派する放水路開削を中心とした改修計画が立案された。これに基づき、昭和26年(1951年)に延長2.9kmの放水路工事に着手した。

しかし、昭和33年(1958年)9月の狩野川台風による未曾有の出水で大幅な計画の変更を余儀なくされ、昭和38年(1963年)、大仁地点の計画流量を $1,700\text{m}^3/\text{s}$ から $4,000\text{m}^3/\text{s}$ に、放水路は $1,000\text{m}^3/\text{s}$ から $2,000\text{m}^3/\text{s}$ とする計画に変更された。昭和42年(1967年)に一級河川の指定を受け、これらの計画を踏襲した工事実施基本計画を策定し、これまでに堤防整備、護岸や屈曲部の河道付替え等の整備と沿川の都市化の進展に伴い深刻化した内水被害の軽減を図っている。

その後、平成9年(1997年)の河川法改正に伴い、狩野川水系河川整備基本方針を平成12年(2000年)12月に策定し、基準地点における基本高水のピーク流量、計画高水流量については、既往洪水等から妥当性を検証の上、工事実施基本計画を踏襲した。平成17年(2005年)12月には当面の目標として、目標流量を大仁地点で $3,100\text{m}^3/\text{s}$ とする河川整備計画を策定した。この計画に基づき、河道掘削や堤防整備・強化等を実施している。

また、昭和54年(1979年)には静岡県全域が東海地震に係わる地震防災対策強化地域に指定され、河口部の高潮堤の補強対策等を行ってきた。その後、平成23年(2011年)に発生した東北太平洋沖地震を教訓とし、南海トラフ巨大地震の被害想定を踏まえ、静岡県第4次被害想定が策定され、高潮堤等の耐震対策に取り組んでいる。

静岡県第4次被害想定、水防災意識社会再構築ビジョンが公表される等狩野川をとりまく社会情勢の変化を踏まえ、平成28年(2016年)12月に河川整備計画を変更し、ハード・ソフト対策を一体として推進している。

さらに、流域の大半が脆弱な火山噴出物で覆われ、大雨などで崩壊しやすい地質構造となっていることから、狩野川台風を契機として昭和34年(1959年)に上流域の直轄砂防工事に着手し、土砂流出の抑制を図っている。令和元年東日本台風では、整備された砂防堰堤等が効果を発揮し、流域内の被害発生を未然に防止した。

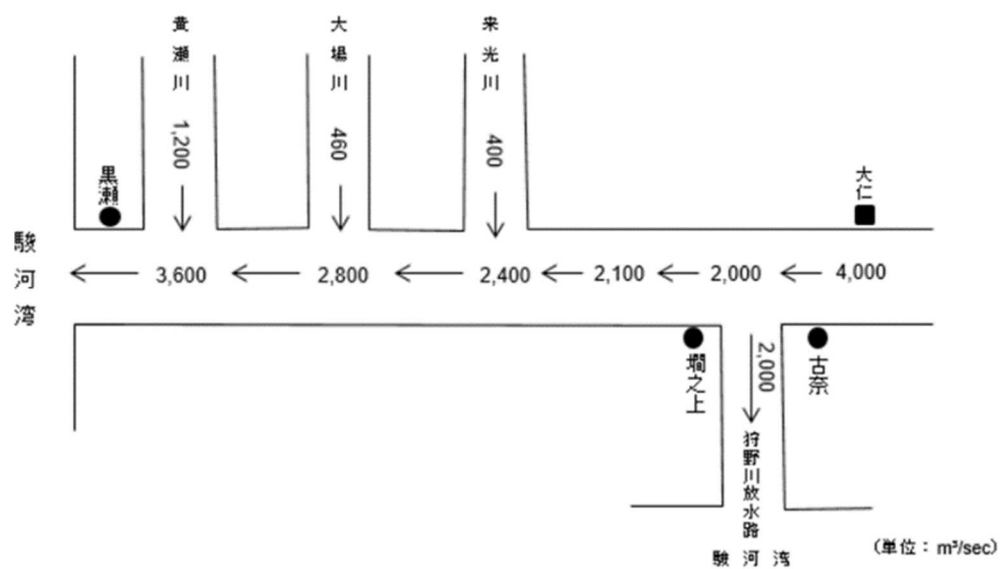


図 4-2-1 狩野川 計画高水流量図

[昭和 43 年 (1968 年) 2 月 狩野川水系工事実施基本計画記載]

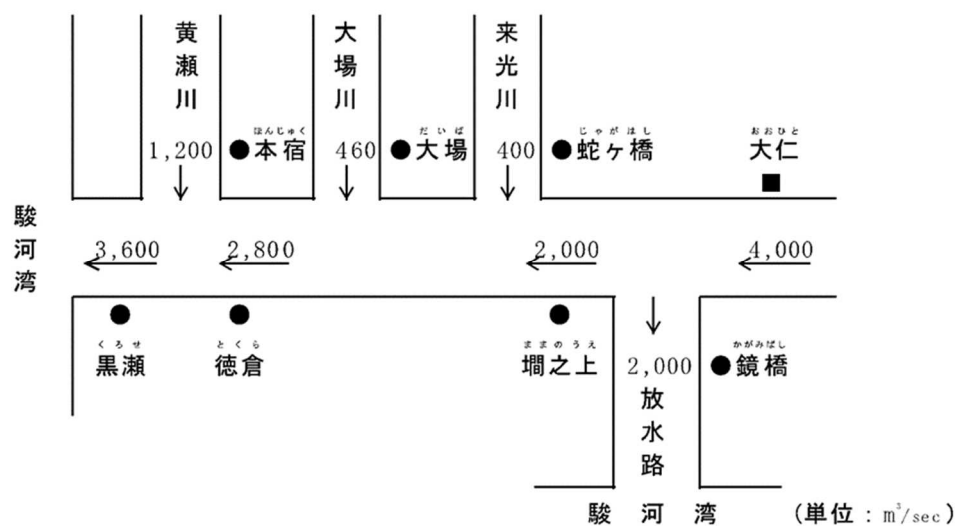


図 4-2-2 狩野川 計画高水流量図

[平成 12 年 (2000 年) 12 月 狩野川水系河川整備基本方針記載]

表 4-2-1 狩野川水系における治水工事の歴史

年号	年	記事
昭和	2	狩野川、直轄工事に着手。計画は大正9、11年の洪水を基に策定され、本川大仁地点における計画流量を $1,700\text{m}^3/\text{s}$ とした。
	7	太平捷水路に着手
	12	太平捷水路完成
	24	昭和23年9月のアイオン台風の実績等に鑑み、狩野川放水路に $1,000\text{m}^3/\text{s}$ 分派する計画を立案。
	26	狩野川放水路開削工事着手
	33	狩野川台風襲来
	35	神島捷水路に着手
	38	昭和33年9月の狩野川台風の洪水実績に鑑み、計画流量改訂。計画は、狩野川台風の洪水実績を鑑み、基準地点大仁の計画流量を $4,000\text{m}^3/\text{s}$ とし、放水路分派量を $2,000\text{m}^3/\text{s}$ とした。
	40	狩野川放水路・神島捷水路完成
	42	狩野川が一級河川に指定、狩野川水系工事実施基本計画の策定 計画高水流量 $4,000\text{m}^3/\text{s}$ （大仁地点）、狩野川放水路分派量 $2,000\text{m}^3/\text{s}$
平成	元	伊豆箱根鉄道来光川橋梁特定構造物改築事業に着手
	4	宗光来川・戸沢川救急内水対策事業に着手
	6	伊豆箱根鉄道来光川橋梁特定構造物改築事業完成
	11	宗光来川・戸沢川救急内水対策事業完成
	12	狩野川水系河川整備基本方針策定 計画高水流量 $4,000\text{m}^3/\text{s}$ （大仁地点）、狩野川放水路分派量 $2,000\text{m}^3/\text{s}$
	14	来光川 河川災害復旧等関連緊急事業完成
	17	狩野川水系河川整備計画策定 整備計画目標流量 $3,100\text{m}^3/\text{s}$ （大仁地点）
	20	狩野川床上浸水対策特別緊急事業（四日町排水機場ポンプ増強）
	25	狩野川特定構造物改築事業（黄瀬川橋）完成
	28	狩野川水系河川整備計画（変更）の策定



放流中の狩野川放水路



神島捷水路



四日町排水機場



冷小第1砂防堰堤

(2) 流路の変遷

狩野川中流部に広がる田方平野は、静岡県東部にあり、伊豆半島のほぼ中央部を流れる狩野川により形成された沖積平野である。ここは、氷河期も終わり海面が現在よりも数m高くなった約 6,000 年前の縄文時代頃には沼津市から黄瀬川下流、さらに現在の伊豆長岡町付近までは入江となっており、古狩野湾を形成していた。

やがて海面が低下し始めると、古狩野湾に注いでいた狩野川は大量の土砂を古狩野湾に堆積させ、次第に古狩野湾を埋め立て、現在の田方平野を形成していった。その後、約 1,000 年前の狩野川は、自然堤防の状況から、大仁町・菰山町のあたりでは現在よりも東側を流れていたことが確認できる。また、伊豆長岡町では、網目状に旧河道が分布し、洪水のたびに流路が変わったことを示している。この様子は周辺の地名にも残されており、中州がいくつもできて島のようになり、「和田島」や「蛭ヶ小島」(源頼朝が平治の乱(1159 年)後、流刑された場所)などと呼ばれていた。

狩野川の流路は、その後次第に西側に移り、鎌倉時代と伝えられる守山開削により守山の西に移されて、現在の流路とほぼ同じになった。

狩野川の名前の由来には諸説があるが、日本書紀(4 世紀頃)によれば、伊豆の国で船を造りその名を「枯野」と称したとあり、それが軽野(カルヌ)からカヌに変わったという説が最も一般的である。

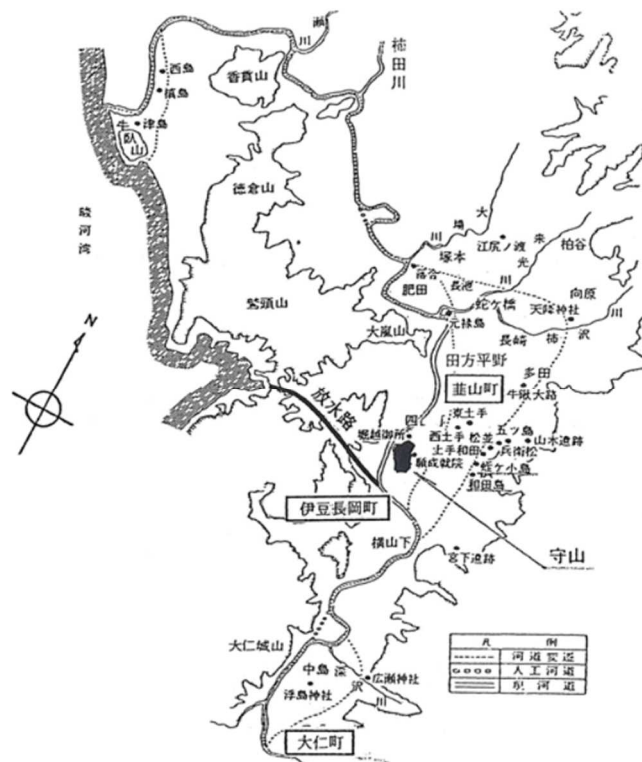


図 4-2-3 狩野川河道の変遷図

5. 水利用の現状

5-1 水利用の実態

狩野川の上流部では発電用水や小規模な農業用水(ワサビ田等)として利用され、中下流部の平坦地域では農業用水として利用される他、水道用水や工業用水として利用されている。

狩野川水系における水利用は表 5-1-1 のとおりであり、許可水利は 39 件あり、発電を除く最大取水量の合計は約 9 m³/s である。狩野川のかんがい面積は、許可、慣行合わせて水系全体では約 9,500ha、狩野川本川では約 800ha となっている。

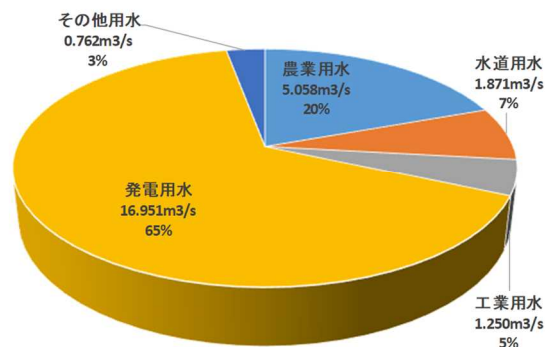
また、湧水を水源とする柿田川からは水道用水 2 件 (1.702m³/s)、工業用水 1 件 (1.250m³/s) 合わせて 2.952m³/s が取水されている。このように水道用水、工業用水の大半は柿田川の湧水に依存している。

表 5-1-1 狩野川水系の水利用の現状（令和 4 年（2022 年）4 月現在）

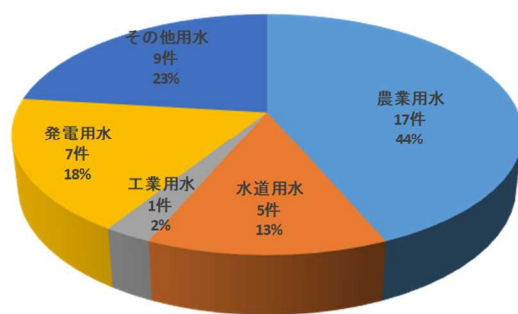
河川名		農業用水		水道用水		工業用水		発電用水		その他用水		合計	
		水利権量 (m ³ /s)	件数	水利権量 (m ³ /s)	件数	水利権量 (m ³ /s)	件数	水利権量 (m ³ /s)	件数	水利権量 (m ³ /s)	件数	水利権量 (m ³ /s)	件数
本川	河口～修善寺橋 (中下流部)	4.289	10	0.150	1					0.230	2	4.669	13
	修善寺橋上流 (上流部)							7.210	3			7.210	3
支川	黄瀬川			0.010	1							0.010	1
	柿田川			1.702	2	1.250	1					2.952	3
	大場川												
	来光川	0.306	2									0.306	2
	柿沢川	0.163	2									0.163	2
	その他	0.300	3	0.009	1			9.741	4	0.532	7	10.582	15
合計		5.058	17	1.871	5	1.250	1	16.951	7	0.762	9	25.892	39

注 1) 許可水利権を対象に整理

注 2) 「その他用水」の主な用途は環境用水、養魚用水、防火用水等である



【水利権量の内訳】



【水利権件数の内訳】

図 5-1-1 狩野川水系の水利用の割合（許可水利権）
（令和 4 年（2022 年）4 月現在）

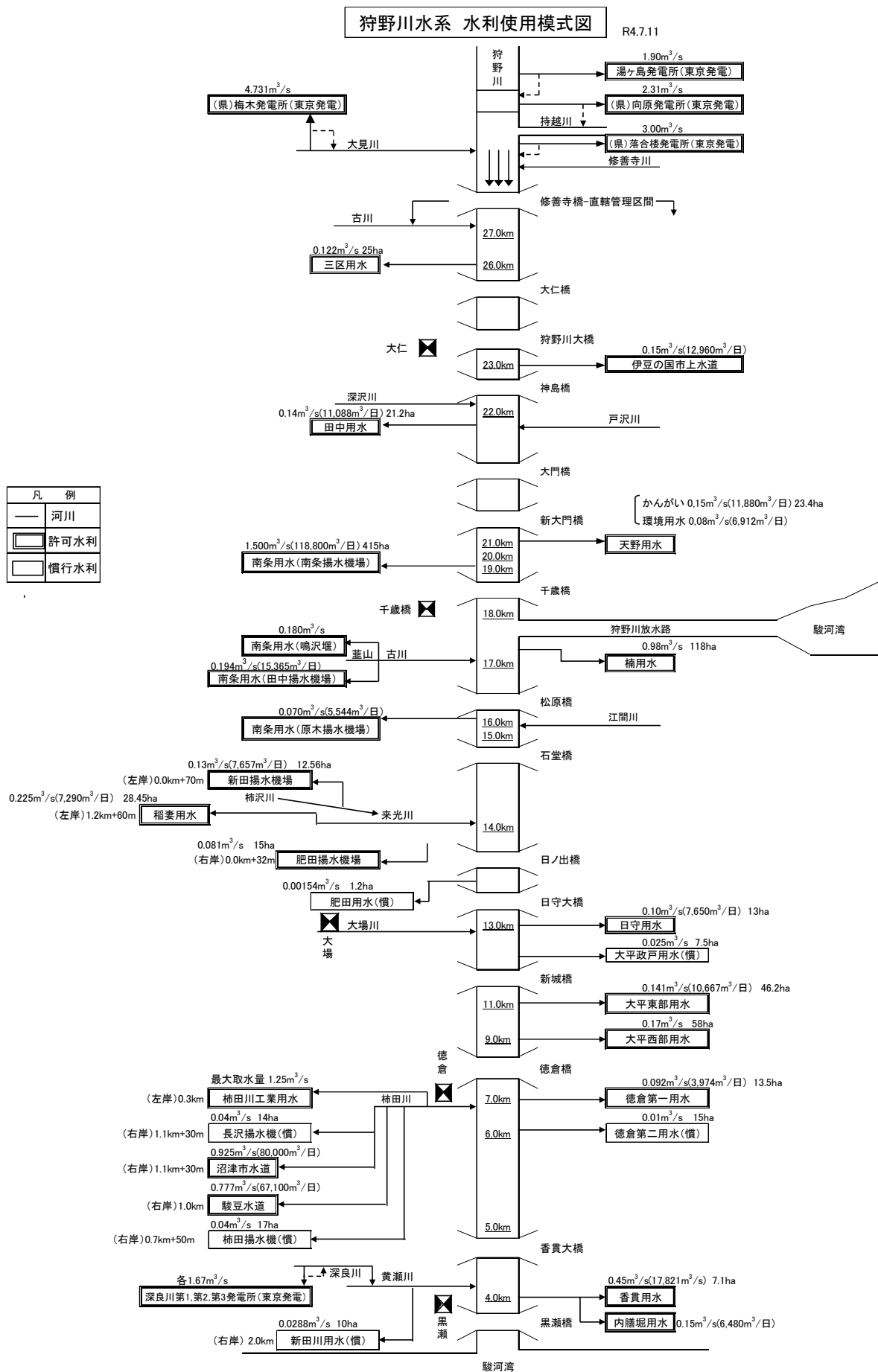


図 5-1-2 狩野川水利使用模式図（令和 4 年（2022 年）4 月現在）

5-2 渇水被害と渇水調整などの現状

狩野川流域は水源部が多雨地帯であること及び、浸透性と透水性に富む火山性の地質域が多く分布していることから、河川の流況は安定しており、また地下水の湧水量が豊富であるため、過去において水不足などで大きな問題は生じていない。

また、100 万 m^3 /日を誇る柿田川の湧水量は、近年は安定しており、関係機関や住民との連携により、このような類い希で貴重な生態系が見られる水と緑の空間の保全の取組がなされている。

6. 河川流況と水質

6-1 河川流況

大仁地点における過去 52 年間（昭和 44 年（1969 年）～令和 2 年（2020 年））の流況は表 6-1-1 のとおりであり、流況的には安定している。また、大仁地点における 52 年間の平均渇水流量が約 $8.5\text{m}^3/\text{s}$ 、平均低水流量が約 $11.8\text{m}^3/\text{s}$ となっている。

また、10 年に 1 回程度の規模の渇水流量は約 $6.1\text{m}^3/\text{s}$ である。

表 6-1-1 大仁地点における流況（単位：m³/s）

No.	西暦	和暦	日最大流量 (m³/s)	豊水流量 (m³/s)	平水流量 (m³/s)	低水流量 (m³/s)	渇水流量 (m³/s)	日最小流量 (m³/s)	年平均流量 (m³/s)
1	1969	昭和44年	309.57	25.14	17.88	14.82	10.54	9.67	25.17
2	1970	昭和45年	217.66	17.63	12.60	9.83	7.86	7.36	18.04
3	1971	昭和46年	165.13	17.39	12.98	9.38	7.11	6.60	16.10
4	1972	昭和47年	337.18	25.95	18.69	12.81	9.59	8.19	25.17
5	1973	昭和48年	102.96	19.97	14.57	11.54	8.74	8.26	17.72
6	1974	昭和49年	182.16	24.84	16.32	11.41	7.01	6.58	22.94
7	1975	昭和50年	178.38	24.72	18.01	14.32	8.96	7.88	22.77
8	1976	昭和51年	356.12	24.48	18.40	14.27	9.63	8.69	23.98
9	1977	昭和52年	245.42	21.26	13.33	10.16	7.70	6.92	22.36
10	1978	昭和53年	178.46	12.78	10.88	9.53	7.70	7.26	13.04
11	1979	昭和54年	361.17	19.65	13.34	9.96	7.17	6.79	19.37
12	1980	昭和55年	175.33	26.20	18.58	14.99	10.74	9.83	24.02
13	1981	昭和56年	287.87	19.68	14.68	11.11	9.12	8.59	19.19
14	1982	昭和57年	740.72	27.51	14.81	11.79	5.09	5.03	27.82
15	1983	昭和58年	823.4	24.55	17.26	14.23	9.76	9.21	25.90
16	1984	昭和59年	127.58	10.90	9.21	8.06	6.41	6.02	10.81
17	1985	昭和60年	489.56	18.17	12.69	9.98	5.80	4.82	18.82
18	1986	昭和61年	93.46	18.77	13.16	8.03	6.64	4.74	16.05
19	1987	昭和62年	127.49	16.41	12.44	9.50	6.99	6.84	15.31
20	1988	昭和63年	223.51	20.48	13.40	8.30	5.96	5.52	20.00
21	1989	平成元年	259.27	29.49	20.59	14.60	7.57	6.12	27.47
22	1990	平成2年	380.66	23.08	16.87	13.72	9.15	8.30	24.96
23	1991	平成3年	576.69	26.65	17.66	12.95	10.34	8.64	29.57
24	1992	平成4年	208.25	26.27	19.41	14.82	10.44	9.63	25.12
25	1993	平成5年	248.65	26.65	16.87	13.18	9.80	8.52	24.47
26	1994	平成6年	142.23	14.41	11.97	9.68	6.84	6.41	14.42
27	1995	平成7年	262.89	18.98	10.79	8.06	5.58	5.42	18.12
28	1996	平成8年	243.68	14.36	10.80	7.67	6.11	5.29	13.92
29	1997	平成9年	208.09	13.83	10.29	8.65	7.46	7.02	14.03
30	1998	平成10年	510.33	33.67	22.21	15.38	8.89	8.11	31.52
31	1999	平成11年	239.42	22.16	15.88	10.40	6.49	6.16	21.34
32	2000	平成12年	205.52	20.32	14.45	9.85	7.47	7.06	17.88
33	2001	平成13年	618.75	20.84	14.07	11.36	9.07	8.06	21.45
34	2002	平成14年	371.25	21.59	15.42	12.68	9.24	8.74	22.66
35	2003	平成15年	713.60	26.59	19.42	15.15	9.28	8.27	28.97
36	2004	平成16年	279.66	24.88	18.73	14.30	10.79	10.25	25.32
37	2005	平成17年	350.54	18.38	13.88	11.38	7.95	7.45	19.01
38	2006	平成18年	296.60	19.17	14.54	12.09	7.76	7.21	18.80
39	2007	平成19年	512.59	18.87	14.24	12.25	10.40	9.71	24.08
40	2008	平成20年	252.12	28.37	18.05	13.50	10.47	9.98	26.13
41	2009	平成21年	159.43	21.96	16.63	13.74	11.23	10.91	20.75
42	2010	平成22年	149.10	26.22	18.37	14.52	10.91	10.66	23.27
43	2011	平成23年	397.77	21.01	15.40	12.17	9.70	9.34	21.44
44	2012	平成24年	374.93	21.34	14.11	10.27	7.62	7.03	21.27
45	2013	平成25年	317.27	17.45	12.53	10.42	8.68	8.00	欠測
46	2014	平成26年	498.33	20.16	14.20	10.94	8.72	8.36	20.22
47	2015	平成27年	欠測	23.48	16.75	13.89	10.74	欠測	欠測
48	2016	平成28年	331.75	24.51	17.39	14.18	11.11	10.67	24.33
49	2017	平成29年	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測
50	2018	平成30年	207.65	25.48	17.73	12.35	9.33	8.92	23.81
51	2019	令和元年	951.29	25.42	16.01	9.37	7.56	7.24	26.05
52	2020	令和2年	195.15	24.94	17.26	13.39	9.61	9.03	26.74
近10年間 (H23～R2)		平均	409.27	22.64	15.71	11.89	9.23	8.57	23.41
		最大	951.29	25.48	17.73	14.18	11.11	10.67	26.74
		最小	195.15	17.45	12.53	9.37	7.56	7.03	20.22
全期間 (S44～R2)		平均	323.73	21.90	15.41	11.78	8.53	7.83	21.67
		最大	951.29	33.67	22.21	15.38	11.23	10.91	31.52
		最小	93.46	10.90	9.21	7.67	5.09	4.74	10.81
w=1/10	52年 第5位			14.41	10.88	8.30	6.11		
	50年 第5位			14.41	10.88	8.30	6.11		
	40年 第4位			14.41	10.80	8.06	5.96		
	30年 第3位			14.41	10.80	8.65	6.49		
	20年 第2位			18.87	14.07	10.27	7.62		
	10年 第1位			17.45	12.53	9.37	7.62		

6-2 河川水質

6-2-1 水質の環境基準値

狩野川水系における狩野川本川、黄瀬川、大場川、来光川の「水質汚濁に係る環境基準」の類型指定は、表 6-2-1 に示すとおりである。

表 6-2-1 狩野川水系における環境基準類型指定

水域	名称	範 囲	測定地点	基準点	補助地点	該当類型	達成期間	当初の指定年月日 または 最終見直し年月日
狩野川 水域	狩野川上流	瑞祥橋より上流	瑞祥橋	○		A A	イ	S45. 9. 1
	狩野川中流	瑞祥橋から神島橋まで	大仁橋	○		A A	イ	H29. 4. 1 見直し
	狩野川下流	神島橋より下流	千歳橋 徳倉橋 黒瀬橋	○ ○	○	A A	イ	R4. 4. 1 見直し
	黄瀬川上流	あゆつぼの滝から上流の黄瀬川本流	あゆつぼの滝	○		B	イ	H1. 4. 1
	黄瀬川下流	あゆつぼの滝から下流の黄瀬川本流	黄瀬川橋	○		C	ロ	H9. 4. 1 見直し
	大場川上流	出逢橋から上流の大場川本流	出逢橋	○		A	イ	H2. 4. 1
	大場川下流	出逢橋から下流の大場川本流	月見橋 塚本橋	○ ○	○	A	ロ	R4. 4. 1 見直し
	来光川上流	大土肥橋から上流の来光川本流	大土肥橋	○		A	イ	H2. 4. 1
	来光川下流	大土肥橋から下流の来光川本流	蛇ヶ橋	○		A A	イ	R4. 4. 1 見直し

注) A A : BOD濃度1mg/L以下
A : BOD濃度2mg/L以下
B : BOD濃度3mg/L以下
C : BOD濃度5mg/L以下

イ : 直ちに達成
ロ : 5年以内に可及的速やかに達成
ハ : 5年を超える期間で可及的速やかに達成

6-2-2 水質の現状

狩野川水系の各環境基準点における BOD75%値をみると、近年環境基準値を概ね満足している。

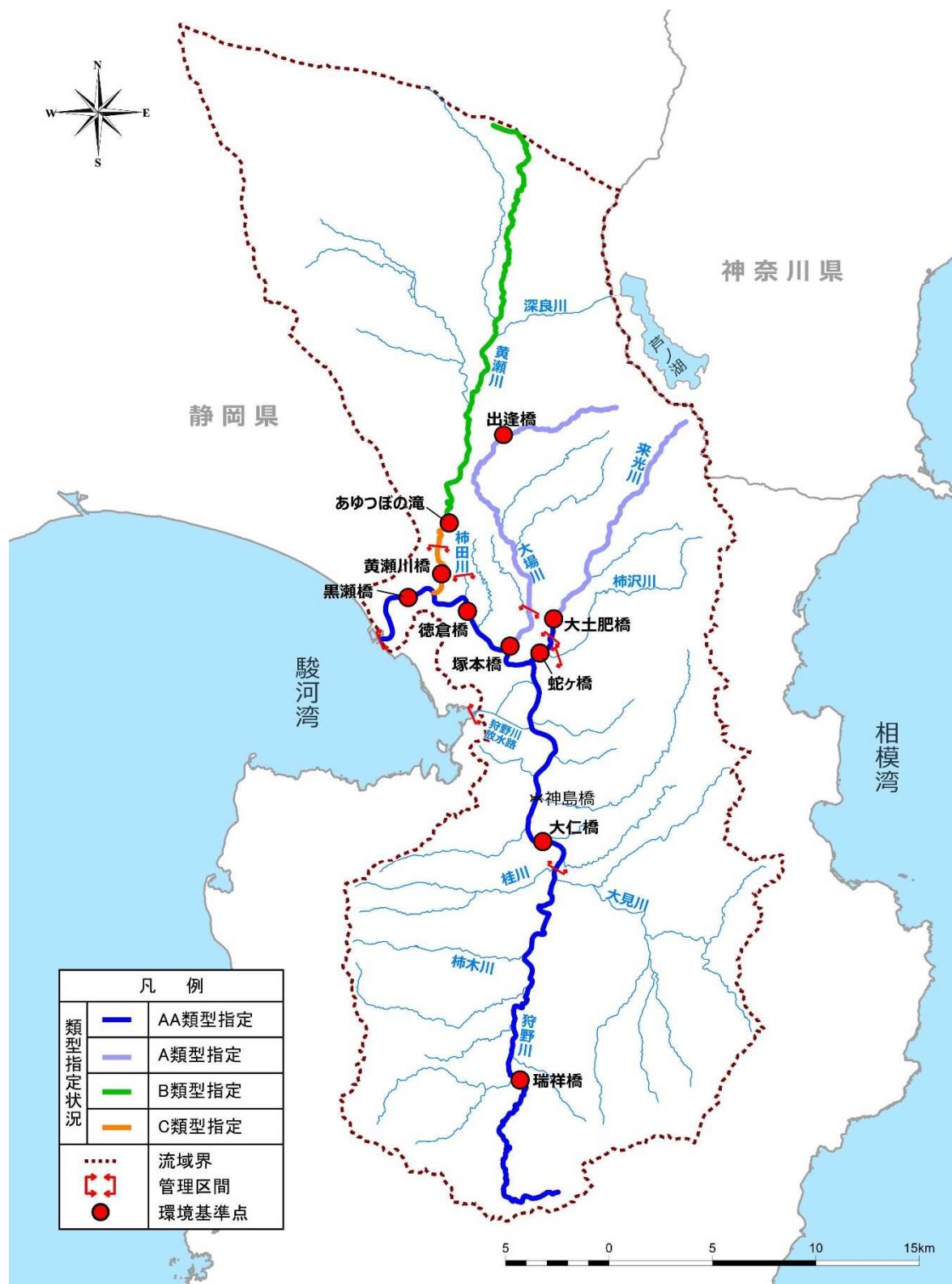


図 6-2-1 狩野川 水質環境基準点及び類型指定状況図

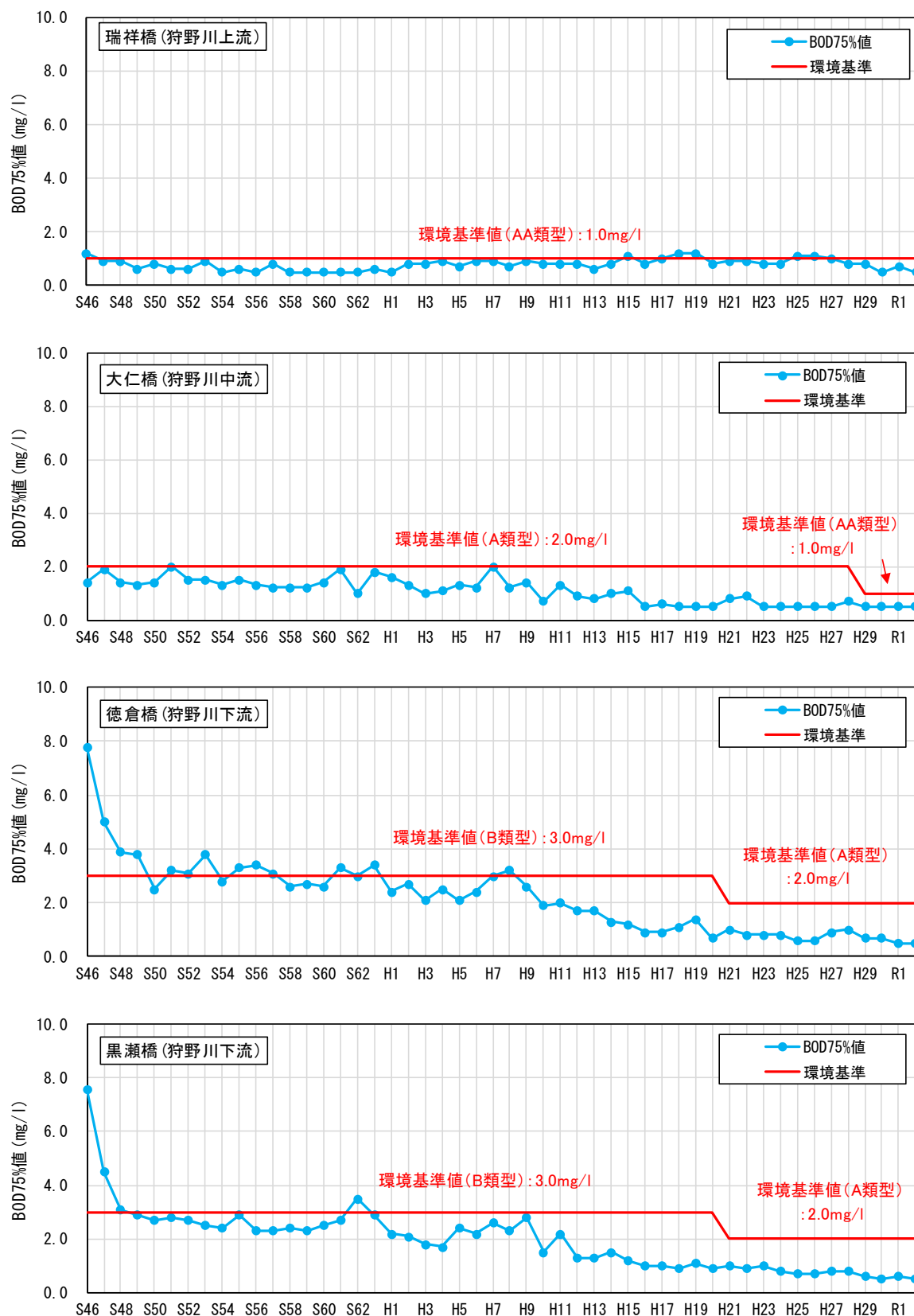


図 6-2-2 狩野川の水質 (BOD75%値) の経年変化 (本川)

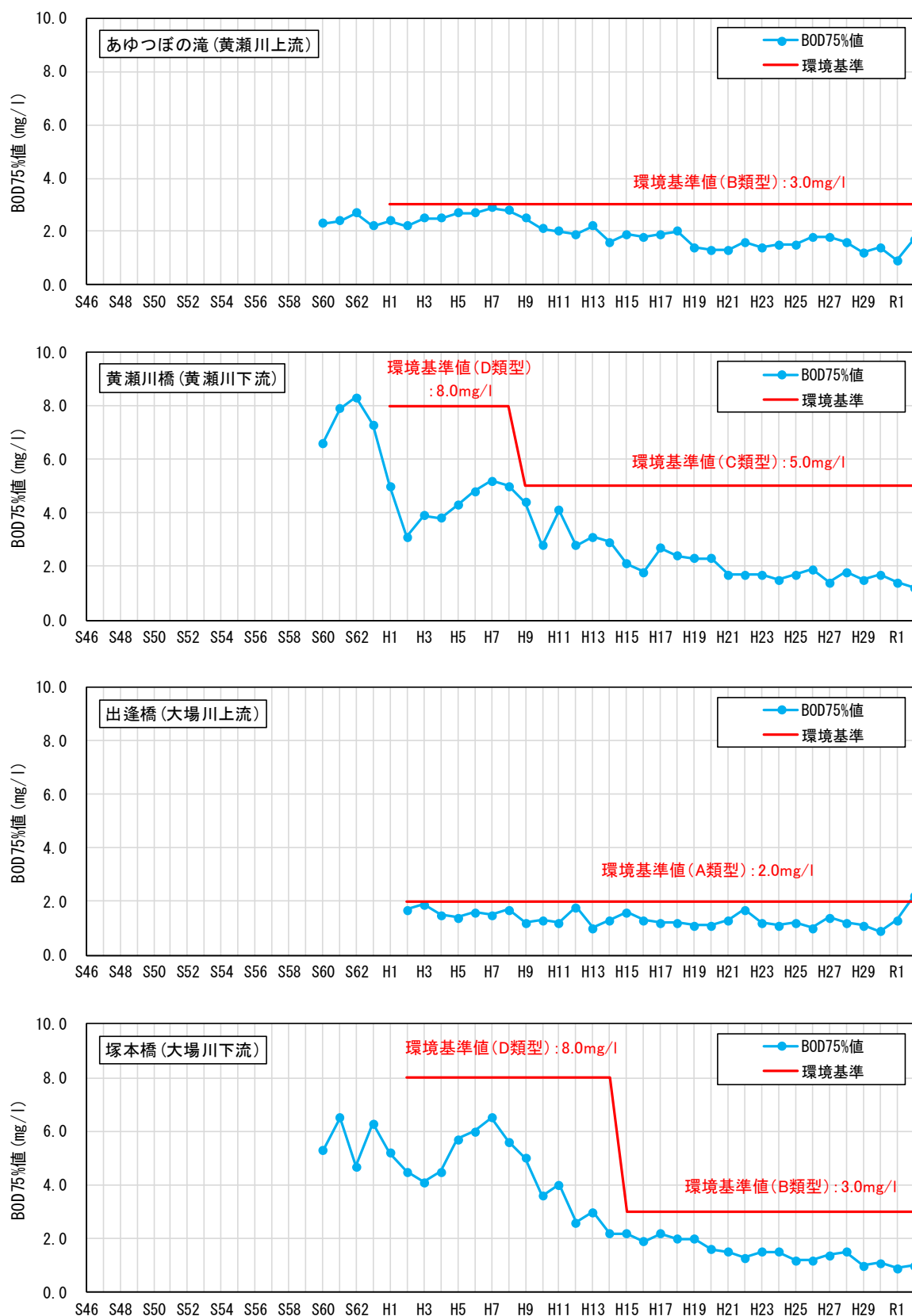


図 6-2-3 狩野川水系の水質 (BOD75%値) の経年変化 (支川 (1))

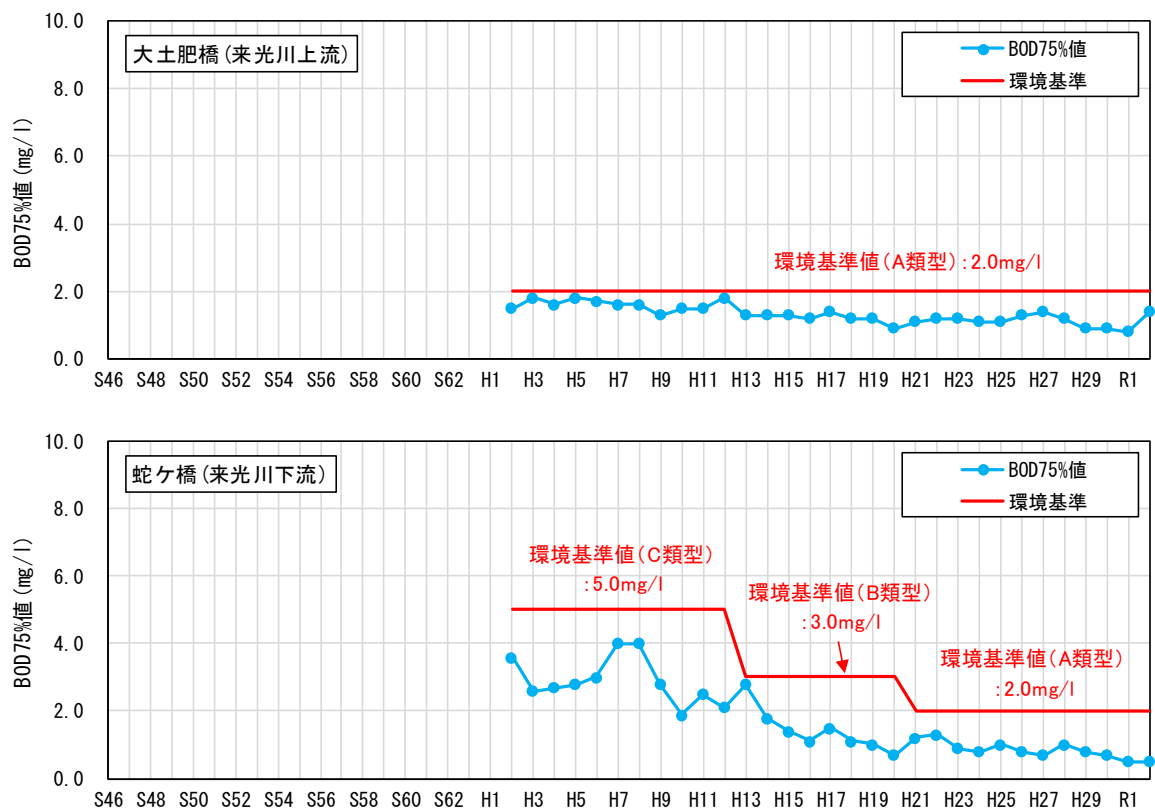


図 6-2-4 狩野川水系の水質 (BOD75%値) の経年変化 (支川 (2))

7. 河川空間の利用状況

7-1 河川の利用状況

上流部は、伊豆の踊子や温泉で知られる観光地域となっており、浄蓮の滝、万城^{ばんじょう}の滝等の景勝地を巡る散策道に多くの観光客が訪れる。

中流部はアユの友釣りが盛んで、特に大仁橋周辺は「アユ釣り銀座」と呼ばれ、全国的にも知られており、初夏には多くのアユ釣り客が訪れる。また、筏の松明に火をつけて流す「川神浄^{かわかんじょう}」や、盆踊り慰霊祭などの伝統行事や、いかだ競漕、魚つかみ取り大会等のイベントが盛んに行われている。

下流部では、高水敷のオープンスペースを活用した花火大会や灯籠流し、鯉のぼりフェスティバル等のイベントが開催されている。カヌー等による水面利用が中下流で行われ、河口部では、「我入道の渡し」が平成9年（1997年）に復活・運航している。

狩野川では、その豊かな自然とオープンスペースを活用した公園・緑地や運動場、遊歩道といった様々な用途の施設が整備されている。沼津市中心部に位置する上土地区では「かのがわ風のテラス」として河川利用のオープン化の取り組みが、平成25年（2013年）より進められているほか、函南町塚本地区^{つかもと}では階段や坂路、散策路、河川敷広場、水辺の護岸、ワンド等が整備され、「道の駅（伊豆ゲートウェイ函南）」及び「川の駅（河川防災ステーション）」と連携したレクリエーション等の場として活用されている。

このように狩野川では、各地域などの特色を活かし、まちづくりと一体となった水辺が計画・整備されている。また狩野川流域では環境学習や体験イベントといった水辺空間の利用を通じて、狩野川の魅力や川を拠点とした歴史・文化の発信に関する新たな取組が積極的に行われている。

狩野川の利用状況を見ると、令和元年（2019年）度では年間約170万人が狩野川を訪れており、地域の憩いの場として狩野川の果たす役割は大きくなっている。



水辺のステージ



川の駅 伊豆ゲートウェイ函南



伊豆の国市
かわまちづくり計画



沼津市：狩野川花火大会



伊豆の国市：かわかんじょう（伝統行事）



伊豆の国市：アユの友釣り発祥



清水町：柿田川湧水公園



伊豆市：浄蓮の滝

7-2 高水敷の利用状況

狩野川の高水敷面積は約 190ha であり、官有地が約 8 割を占めている。官有地では既利用地が約 20ha となっている。また、狩野川は、アユの友釣り発祥地として知られ、釣りをはじめ高水敷や水際での散策や水遊びの場として、河川の利用が行われている。

表 7-2-1 狩野川水系の年間河川空間利用状況

区分	項目	年間推計値（千人）		利用状況の割合	
		H26 調査	H31 調査	H26 調査	H31 調査
利用形態別	スポーツ	109	58.4		
	釣り	36	56.8		
	水遊び	44	52.5		
	散策等	1,026	1,550.4		
	合計	1,214	1,718.1		
利用場所別	水面	50.2	49.6		
	水際	29.1	59.7		
	高水敷	448.6	398.5		
	堤防	686.6	1,210.3		
	合計	1,214	1,718.1		

表 7-2-2 狩野川流域における高水敷の利用状況の一覧（1）

公園

河川名	No.	距離標		左右岸	施設名	種別	施設面積(m2)	管理者名
狩野川	1	2.0	～	3.4 左	河川緑地	公園・緑地	11,371.30	沼津市長
	2	2.2	～	2.4 右	上土広場	広場	6,924.60	沼津市長
	3	5.0	～	5.3 右	河川緑地	緑地	14,466.00	沼津市長
	4	8.0	～	9.0 左	狩野川ふれあい広場	公園	35,078.00	清水町長
	5	15.0			ゲートボール場	公園	309.00	-
	6	16.6			ゲートボール場	公園	654.30	-
	7	17.2			狩野川さくら公園	公園	17,006.00	伊豆の国市長
	8	17.4	～	17.7 左	歩道及び緑地並びに運動場	公園・緑地	10,770.40	伊豆の国市長
	9	17.6	～	18.1 右	歩道及び緑地並びに運動場	公園・緑地	19,921.40	静岡県知事
	10	16.3	～	18.8 左	河川緑地	公園・緑地	13,151.00	伊豆の国市長
	11	20.4	～	20.8 左	狩野川リバーサイドパーク	公園	36,000.00	伊豆の国市長
	12	21.1			憩いの広場	広場	764.50	伊豆長岡町長
	13	21.4			多目的広場	広場	3,605.60	大仁町長
	14	23.0			多目的共同利用施設	広場	5,191.10	伊豆の国市長
	15	23.0	～	23.2 右	神島運動公園・神島グラウンド	広場・公園	12,600.00	伊豆の国市長
	16	24.1	～	24.2 右	中島運動公園	公園	3,600.00	伊豆の国市長
	17	24.8	～	25.2 左	狩野川記念公園	公園	20,500.00	伊豆市長
	18	25.7			大仁ポケットパーク	公園	181.20	伊豆の国市長
	19	25.8			大仁淵端公園	公園	2,426.90	伊豆の国市長
	20	25.8	～	26.6 右	桜つつみ	公園・緑地	10,655.00	伊豆市長
	21	26.2	～	26.5 左	瓜生野ふれあい広場	公園・緑地	5,868.40	伊豆市長
	22	27.4	～	27.6 右	コミュニティー広場	公園	2,325.20	伊豆市長
黄瀬川	23	0.0	～	0.3 右	黄瀬川公園	公園	10,800.00	沼津市長
柿田川	24	1.0	～	1.2 左	柿田川公園	公園	33,000.00	清水町長
狩野川 放水路	25	0.2			河川緑地	緑地	2,339.00	沼津市長
	26	0.4	～	1.5 右	狩野川放水路グリーンベルト	緑地	22,402.70	伊豆の国市長
		0.8	～	1.5 右	珍野長塚緑地	緑地		
	27	1.5			狩野川放水路長塚小公園	公園	585.10	伊豆の国市長

運動場

河川名	No.	距離標		左右岸	施設名	種別	施設面積(m2)	管理者名
狩野川	1	8.8	～	9.3 右	運動場	運動場	27,916.40	三島市長
	2	13.0			函南町肥田簡易グラウンド	運動場	12,800.00	函南町長
	3	13.7			運動場	運動場	3,096.50	函南町長
	4	27.3			町営牧ノ郷幼稚園運動場	運動場	498.20	伊豆市長

係留施設

河川名	No.	距離標		左右岸	施設名	種別	施設面積(m2)	管理者名
狩野川	1	1.3			スルガマリーナ	係留施設	176.70	スルガマリーナ

散策路

河川名	No.	距離標		左右岸	施設名	種別	施設面積(m2)	管理者名
狩野川	1	5.3	～	5.4 左	散策路	散策路	585.00	清水町長
	2	23.0	～	24.8 右	読売巨人軍長嶋茂雄ランニングロード	散策路	5400.00	伊豆の国市長

サイクリングロード

河川名	No.	距離標		左右岸	施設名	種別	施設面積(m2)	管理者名
狩野川	1	1.0	～	4.9 左	港大橋天神洞線自転車歩行者専用道路	自転車歩行者専用道路	96,839.00	沼津市長
	2	18.0	～	21.0 左	自転車歩行者専用及び緑地帯設置	自転車歩行者専用道路	55,093.10	伊豆の国市長
	3	25.2	～	26.4 左	狩野川サイクリングロード	サイクリングロード	14,674.00	伊豆市長
	4	26.6	～	27.6 左	自転車及び遊歩道	自転車歩行者専用道路	32,720.20	伊豆市長

※No. は図 7-2-1 と対応している。

表 7-2-3 狩野川流域における高水敷の利用状況の一覧 (2)

トイレ

河川名	No.	距離標		左右岸	施設名	種別	施設面積 (m2)	管理者名
狩野川	1	12.6		右	公衆トイレ	トイレ	25.00	-
	2	17.2		右	公衆トイレ (寺山西公園)	トイレ	48.00	-
	3	18.7		左	公衆トイレ	トイレ	45.00	-
	4	23.2		右	公衆トイレ	トイレ	50.00	-
	5	24.0		右	公衆トイレ	トイレ	60.00	-

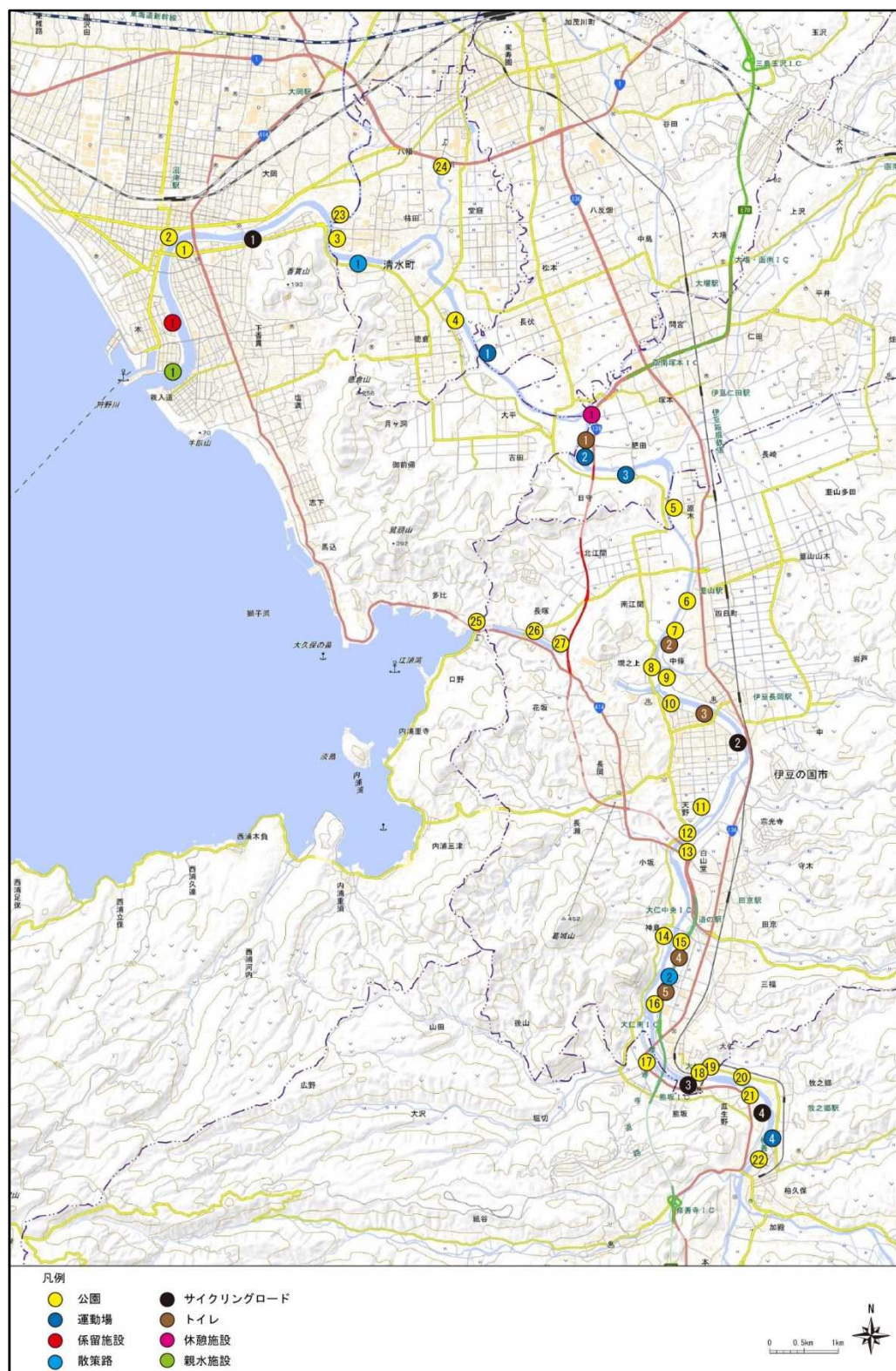
休憩施設

河川名	No.	距離標		左右岸	施設名	種別	施設面積 (m2)	管理者名
狩野川	1	12.0	12.3	右	川の駅 伊豆ゲートウェイ函南	川の駅	15,000.00	株式会社JM

親水施設

河川名	No.	距離標		左右岸	施設名	種別	施設面積 (m2)	管理者名
狩野川	1	0.5		右	我入道の渡し船	浸水施設	2,247.80	沼津市長

※No. は図 7-2-1 と対応している。



8. 河道特性

8-1 河道の特性

狩野川流域では、山地が流域の約 75%を占め、山間部は急勾配で下り、田方平野へ出ると蛇行を繰り返しながら瀬淵や中州を形成し、緩やかに流れ河口へ至る。上流部は天城山系に属し、浄連の滝や萬城の滝、滑沢溪谷等の溪流となっており、急勾配で流下する。

中流部は、田方平野を蛇行しながら流下し、瀬淵が連続する区間となっており、ところどころ大規模な中州や安定した高水敷が形成されている。河床勾配は約 $1/100 \sim 1/1,000$ 程度で、標高 10m 前後の低地を緩やかに流れている。河床材料は礫径数 10～100mm 前後程度の礫が多く見られる。

下流部は、河床勾配は約 $1/1,800$ と緩やかになり、河床材料も砂が中心となる。河道は、蛇行を繰り返しながら流下し、柿田川合流点付近では富士山からの溶岩流からなる三島扇状地により河道が圧迫されて狭窄部となっている。黄瀬川合流点下流付近から感潮域となり湾に注いでいる。狩野川の縦断図を図 8-1-1 に示す。

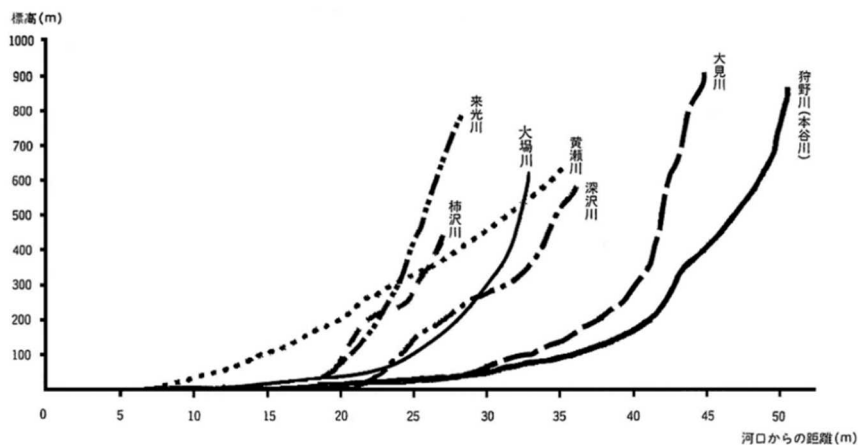
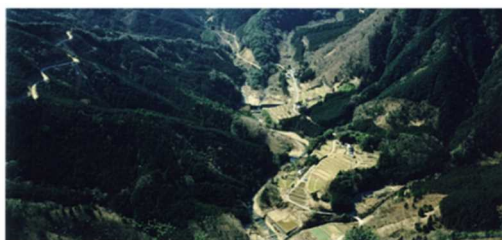


図 8-1-1 狩野川縦断図



狩野川上流部



狩野川中流部



狩野川下流部

8-2 土砂・河床変動の状況

8-2-1 河床変化

狩野川における低水路平均河床高の変化を図 8-2-1 に示す。期間毎の変化要因等、主な特徴について以下に抽出した。

＜昭和 40 年（1965 年）から平成 14 年（2002 年）＞

狩野川では、砂利採取が平成 14 年（2002 年）まで実施されており、河床高は低下傾向にある。昭和 50 年からの累計採取量は約 45 万 m^3 に及ぶ。

＜平成 14 年（2002 年）から令和 2 年（2020 年）＞

砂利採取中止以降の狩野川の河床高は概ね安定している（部分的な維持掘削等の区間を除く）。黄瀬川合流点付近は堆積傾向にある。

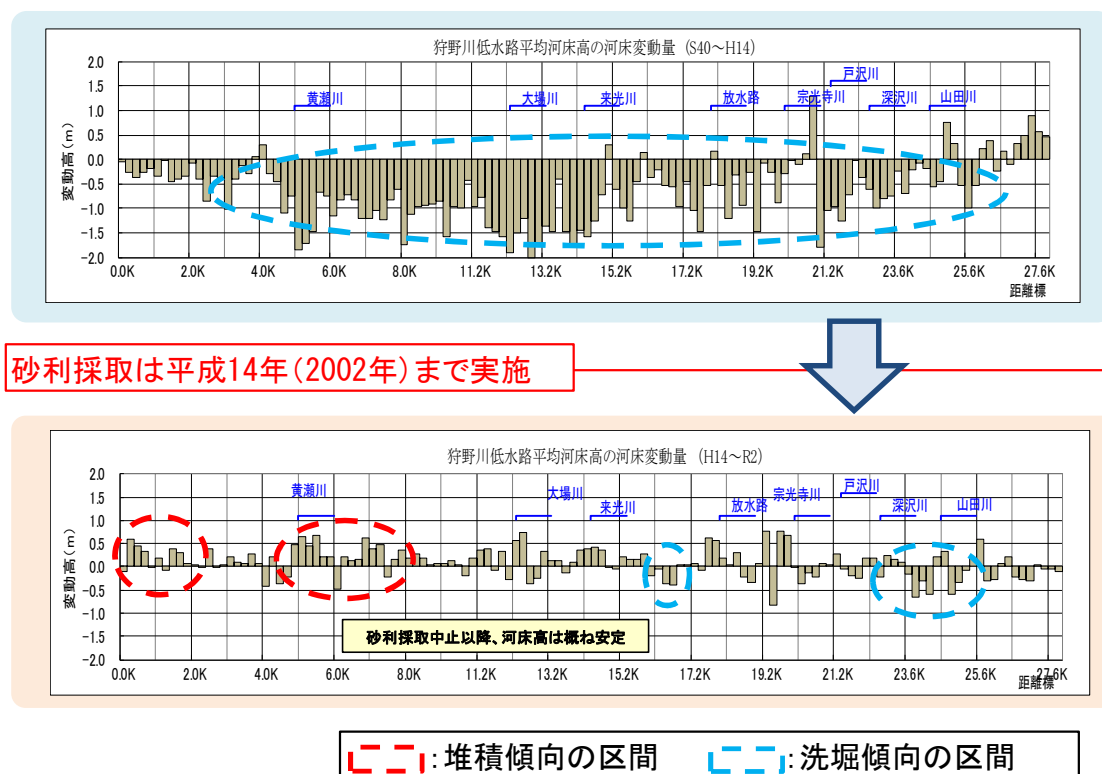


図 8-2-1 狩野川低水路平均河床高の変動量の経年変化

8-2-2 河口部の状況

狩野川河口部の平面形状及び横断形状の経年変化を図 8-2-2 の航空写真および図 8-2-3、図 8-2-4 の横断図に示す。

狩野川の河口部には導流堤があり、砂州による河口閉塞はない。平成 25 年（2013 年）において、湾曲部で砂州が発達しているものの、令和元年東日本台風時には砂州部がフラッシュされており、治水上大きな影響はない。

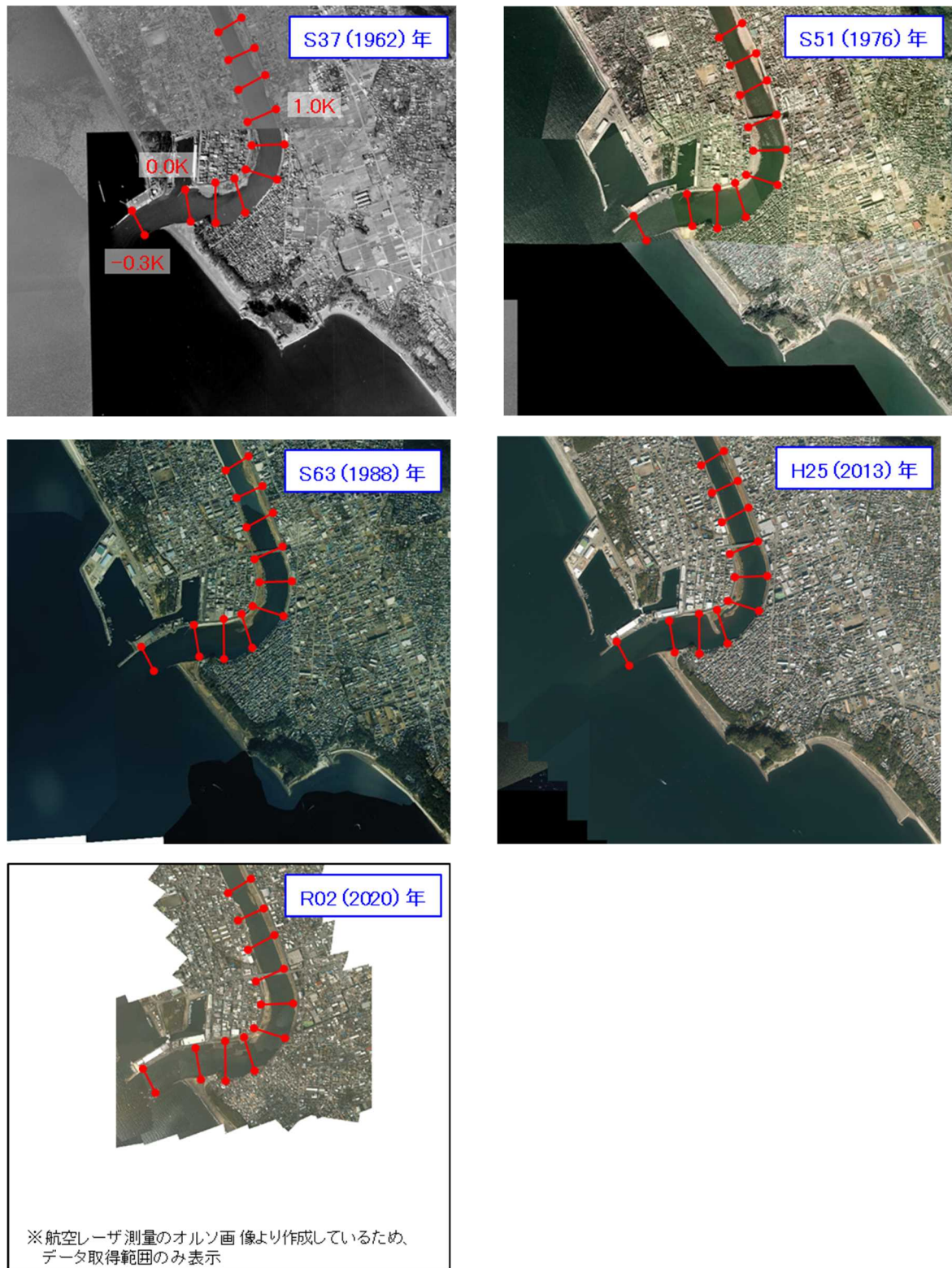


図 8-2-2 狩野川河口部の状況

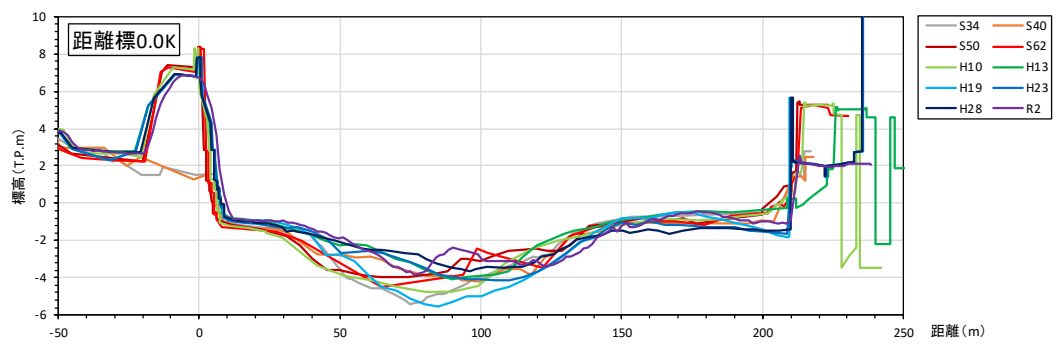


図 8-2-3 代表横断面図（狩野川 0k000：河口部）

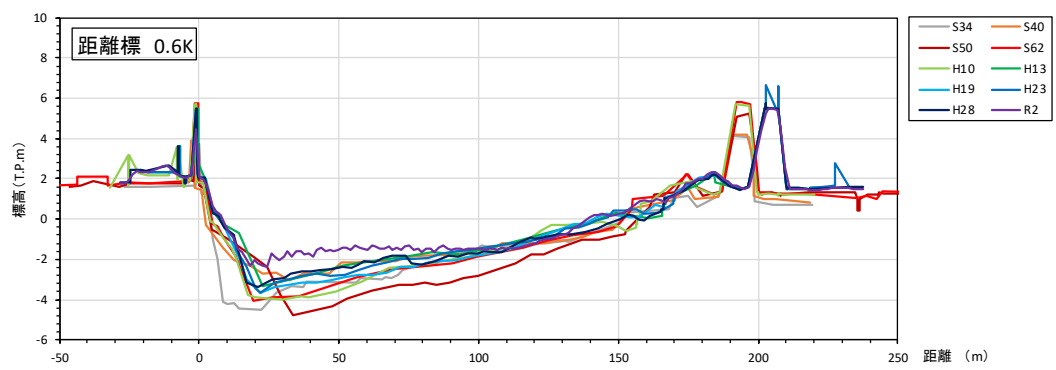


図 8-2-4 代表横断面図（狩野川 0k600）

9. 河川管理

9-1 河川管理区間

狩野川においては、洪水や高潮等による災害発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全の観点から、日々の河川管理を行っている。

狩野川の管理は、本川及び支川黄瀬川、大場川、来光川、柿沢川、柿田川の幹川部分及び放水路を国土交通省が、幹川部分以外を静岡県が管理している。

表 9-1-1 管理区間延長

管理者	河川名（区間）	管理区間延長（Km）
国土交通省	狩野川（河口～修善寺橋）	24.9
	黄瀬川（合流点～寿橋）	2.7
	大場川（合流点～大場橋）	2.6
	来光川（合流点～仁田橋）	1.5
	柿沢川（来光川合流点～長崎橋）	0.9
	柿田川（狩野川合流点～湧水地）	1.2
	放水路（河口～狩野川分派点）	3.0
	大臣管理区間合計	36.8
静岡県	指定区間合計（74河川）	333.2
	合計	370.0

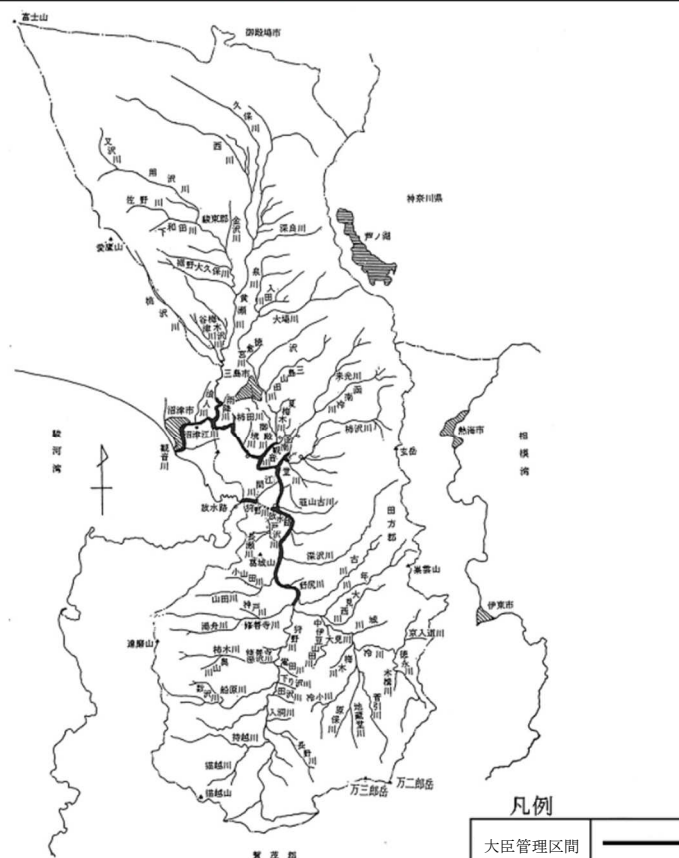


図 9-1-1 狩野川流域概要図

9-2 河川管理施設

災害の防止を図るため、堤防や高水敷、護岸、排水機場、堰及び樋門等の河川管理施設等の状況を把握し、適正な処置を講じるため、河川の巡視、点検や堤防除草、必要に応じ護岸等の老朽化対策、樋門・排水機場等の操作や定期点検、修繕を行うとともに、狩野川放水路では光ファイバーを応用したモニタリングシステムを設置し、的確な放水路操作に役立てている。

狩野川の河川管理施設は、堤防護岸等のほか、堰 1 ヶ所、排水機場 7 ヶ所、樋門樋管 84 ヶ所、陸閘 10 ヶ所などがあり、これらの河川管理施設の状況を把握し、適正な処置を講じるため、河川の巡視、点検を行っている。

表 9-2-1 大臣管理区間の堤防整備状況

	狩野川
完成堤防	54.9km (86.5%)
暫定堤防	8.3km (13.1%)
未施工区間	0.3km (0.4%)
堤防不必要区間	8.3km
計	71.7km

※令和 4 年（2022 年）3 月末

※延長は、大臣管理区間の左右岸の合計である。

表 9-2-2 大臣管理区間の主な河川構造物数

	水門	樋門樋管	揚排水機場	堰・頭首工	床固	帯工	陸閘	合計
直轄	0	84	7	1	0	0	10	102
許可	0	23	41	2	0	0	0	66
合計	0	107	48	3	0	0	10	168



狩野川放水路

9-3 河川情報管理状況

河川管理に必要な雨量、流量等の基礎的な情報を収集するため、流域 19 ヶ所に雨量観測所（全てテレメータ）、14 ヶ所に水位観測所（うち 10 ヶ所がテレメータ）を設置し、雨量や水位の観測を行っている。

また、雨量、流量等の情報を正確かつ迅速に収集し処理を行い、放水路操作や洪水予警報、水防活動等に活用している。



図 9-3-1 狩野川水系における雨量・水位観測所



図 9-3-2 インターネットでの情報提供



図 9-3-3 CCTV カメラ



図 9-3-4 災害対策室（沼津河川国道事務所内）



9-4 水防体制

(1) 水防警報の概要

狩野川本川及び支川黄瀬川、大場川、来光川、柿沢川、放水路において、洪水による災害が起こるおそれがあると認められたときには、水防警報を発令し、水防団や市町村等の関係機関と一体となって、洪水による被害の軽減に努めている。

また、狩野川の本川は、平成11年（1999年）2月に洪水予報指定河川に指定されたことから、静岡地方気象台と共同して洪水予報の発表を行い、洪水による被害の軽減に努めている。

表 9-4-1 狩野川水防警報・洪水予報・水位周知河川 設定水位

河川名	観測所名	地先名	水防団 待機水位 (m)	氾濫注意水位 (m)	出動 水位 (m)	避難判断 水位 (m)	氾濫危険 水位 (m)	計画 高水位 (m)
狩野川	大仁	伊豆の国市 大仁	1.50	警 2.10 洪	警 3.00	洪 3.70	洪 4.40	5.64
	千歳橋	伊豆の国市 南條	2.50	警 4.10 洪	警 5.00			7.83
	徳倉	清水町 徳倉	3.00	警 4.00 洪	警 4.60	洪 6.80	洪 7.20	7.58
	黒瀬	沼津市 平町	2.20	警 3.60 周	警 4.50			7.43
黄瀬川	本宿	長泉町 本宿	2.00	警 3.00 周	警 3.80	周 3.90	周 4.20	6.18
大場川	大場	函南町 間宮	3.00	警 4.80 周	警 5.40	周 7.20	周 7.60	7.84
来光川 柿沢川	蛇ヶ橋	函南町 肥田	3.70	警 5.20 周	警 6.10	周 8.10	周 8.45	8.45
警戒レベル相当			レベル1	レベル2		レベル3	レベル4	
洪水予報発出情報				氾濫注意情報		氾濫警戒情報	氾濫危険情報	

: 水防警報発表
 : 洪水予報発表
 : 水位周知情報発表

(2) 浸水想定区域図の公表

狩野川では放水路や堤防整備といった施設整備だけでなく、住民の洪水に対する意識を高めるため、平成 28 年（2016 年）に洪水浸水想定区域図を公表し、周辺住民への情報提供を行っている。

また、狩野川流域内の各自治体では、洪水浸水想定区域図に基づくハザードマップが公表されている。

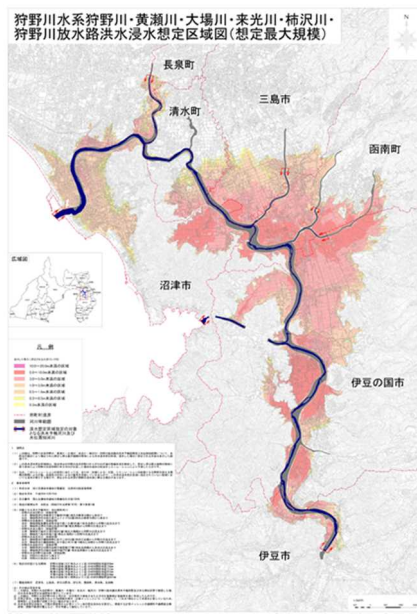


図 9-4-1 浸水想定区域図の公表



図 9-4-2 洪水ハザードマップ（沼津市）

9-5 危機管理への取組

(1) 減災対策協議会

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨（2015 年）を受けて、平成 27 年（2015 年）12 月に策定された「水防災意識社会再構築ビジョン」に基づき、平成 28 年（2016 年）5 月に狩野川水防災協議会を設立した。その後、平成 30 年（2018 年）5 月には、想定最大規模降雨による災害の軽減に資する取組を総合的かつ一体的に推進するため、国及び県の協議会を統合した「静岡県東部地域大規模氾濫減災協議会」を設置し、「水防災意識社会」の再構築を目的に国、県、市町等が連携・協力して、減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的・計画的に推進している。

(2) 流域治水協議会

近年頻発している激甚な水害や気候変動による今後の降雨量の増大と水害の激甚化・頻発化に備え、集水域から氾濫域にわたる流域全体のあらゆる関係者が協働して、流域全体で水害を軽減させる「流域治水」を計画的に推進するため、「狩野川流域治水協議会」が設立された。

協議会では、令和 3 年（2021 年）3 月に「狩野川水系流域治水プロジェクト」を策定し、河川整備に加え、あらゆる関係者が協働して、流域の貯留機能の向上等を組み合わせた流域全体で水害を軽減させる治水対策を推進している。

10. 地域との連携

狩野川では、各地域などの特色を活かし、まちづくりと一体となった水辺が計画・整備され、環境学習や体験イベントといった水辺空間の利用を通じて、狩野川の魅力や川を拠点とした歴史・文化の発信に関する新たな取組が積極的に行われている。

また、地域連携を深めるための情報交換と人的交流を促進することを目的として、河川の維持、河川環境の保全などの河川の管理につながる活動を自発的に行っている河川に精通する団体等により、様々な住民活動が展開されている。狩野川流域では、各地で湧水の保全や水辺の自然環境の保全・創出を目指す取組として、企業や行政と連携した住民活動が行われており、水と緑の空間の保全に果たす住民活動の意義は大きい。今後も環境に関する情報収集やモニタリングを関係機関と連携しつつ適切に行い、河川整備や維持管理に反映させるとともに、得られた情報については地域との共有に努める。



柿田川自然再生計画に基づく自然再生事業

(左：オオカワヂシャの駆除、右：環境学習（サマーサイエンススクール）)



きれいな狩野川（きれかのプロジェクト）